

市町村名	与那原町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-① 地域活性化イベント支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-(イ)		
担当部署名	観光商工課（旧企画観光課）	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	商店街・中心市街地の活性化と商業の振興		
事業内容	観光振興と商工業振興を図るため、商店街大通りにおいて開催されるイベント実施に要する経費の助成を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,700	2,700	540	1,000	
		(b) 予算現額	2,700	2,700	540	1,000	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	
		A. 計 (b+d)	2,700	2,700	540	1,000	
	B. 執行済額		2,700	2,700	540	322	
	うち交付金充当額		2,160	2,160	432	257	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100%	32%	
予算の状況の説明		今年度は例年より少ない3回しか開催できなかったこと、使途として交付金の対象とならない費目に使用した額が大きかったことから、低い執行率となった。					
活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	ちゃんぶる～市を年6回開催	目標	（ 6回開催 ）	（ 6回開催 ）	（ 6回開催 ）	（ 6回開催 ）	
		実績	4回開催	5回開催	4回開催	3回開催	
	軽便市を年6回開催	目標	（ 6回開催 ）	（ 6回開催 ）	（ 6回開催 ）	（ 6回開催 ）	
		実績	4回開催	5回開催	4回開催	3回開催	
達成状況説明	イベントの開催については目標の半分の3回だけの開催に終わった。実施体制についても前年と変わらず商工会の経営指導員がイベント開催に必要な書類作成や申請等の事務手続きを行っており、本来の業務との兼ね合いで時間的に制約がある状況を改善（他の会員との業務分担の整理）することができず、目標回数の達成はできなかった。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）		基準値（23年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
	集客数5,000人	目標	（ 集客1,800人 ）	（ 集客6,000人 ）	（ 集客6,000人 ）	（ 集客5,000人 ）	（ ）
		実績		集客2,615人	集客4,700人	集客3,400人	
	進捗状況説明	集客数については開催数が目標の半分しか開催できず、現行の体制では今年度の開催回数が限度あると思われる。新たな取組みについても画期的なイベントを打ち出すことができず、集客につなげることができなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>前年同様年6回の開催は商工会の別事業や会員個々の事業からみても難しいということと、年6回の開催ではイベント内容のマンネリ化や住民の注目度が低下すると思われ、開催数の見直しを検討する必要がある。</p> <p>また、これまでは事業を推進するうえで成果目標について十分な情報共有ができておらず、その点については行政側の反省点である。</p>	<p>これまではイベントを実施後は実績の報告のみであることが多く、反省点についてはほとんど次回イベントに活かされることが少なかった点が改善余地として挙げられる。</p> <p>次年度以降についてはイベントの専門家を招聘し、イベントに同行してもらうことで内容を検証し、次回イベントにつなげていく流れにもっていく予定。問題点であるイベントがその後の商店街の集客につながらない点を中心に検証していく。</p> <p>開催回数については、これまで「ちゃんぶる～市」「軽便市」と各自別の部会で担当していたが、今回組織を統合することとなり、新体制で可能な回数で計画していく。</p> <p>加えて推進上の留意点で挙げた成果目標について十分情報共有することにより、参加者個々に意識をもって事業に取り組んでいただくこととする。</p>

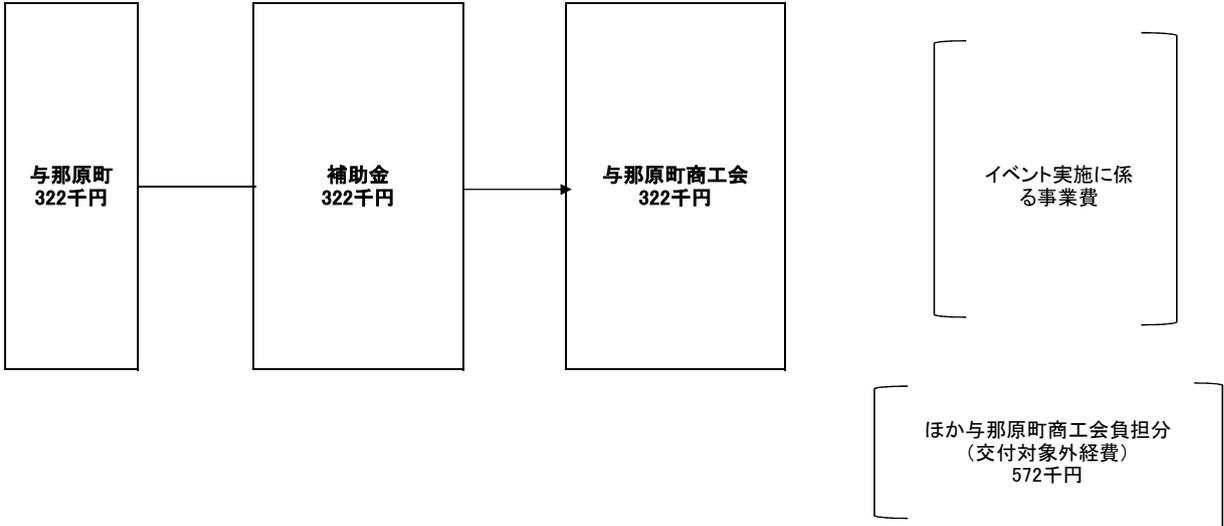
今後の取り組み方針

これまで「ちゃんぶる～市」「軽便市」とそれぞれ別々の部会で担当していたことから、お互いそれぞれの市に対しては、どこか余所事のような感覚であったが、28年度より部会を統合することで、全員で一致してイベントに取り組んでいく体制をとることができるものと思われる。

イベント内容については、専門家を招聘し、イベントに同行してもらいことで内容を検証し、次回イベントにつなげることや、集客につながるものを提案してもらいながら、本町イベント実施に際してアレンジを加えていくなどの取組を行う流れにもっていく。加えて現在のような形でのイベントの実施について継続していくのかの見極めも次年度しなければならぬ旨を商工会とも協議し確認した。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
894	322	257	65	572



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定についてはイベント実施している商工会に対してのものであるため、妥当であると考え。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模についてはやや少額であると思われるが、実施回数からすると概ね妥当である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担についても補助金対象外経費について自己負担しており、負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○使途についても、検査の結果事業目的に沿ったものに使用されており、妥当である。

市町村名		与那原町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-② 滞在型観光構築推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(ア)		
	担当部署名	観光商工課（旧企画観光課）	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	観光振興による地域の活性化に向け観光ガイド養成、地域の情報発信及び民泊受入家庭の発掘等を行い、地域への波及効果を創出する仕組みを構築する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,000	5,000	5,000		
		(b) 予算現額	8,420	5,000	5,000		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,580	0	0		
		(d) 繰越額	0	0	0		
		A. 計 (b+d)	8,420	5,000	5,000		
	B. 執行済額		7,150	4,491	4,956		
	うち交付金充当額		5,720	3,593	3,965		
	次年度繰越額			0	0		
	執行率（%）(B/A)		84.9%	89.8%	99.1%		
予算の状況の説明		当初立てていた予算のとおり事業執行をおこなった。44千円に関してはプロポーザルによる入札残。					
活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	新規観光ガイド養成数：5人	目標	(5人)	()	()	()	
		実績	0人				
	町内事業者等を活用した町歩きコースの開発	目標	(2コース)	()	()	()	
		実績	0コース				
	町のイベントと連動したモニターツアーの開催：2回	目標	(2回)	()	()	()	
		実績	3回				
	民泊家庭の発掘：6軒	目標	(6軒)	()	()	()	
		実績	0軒				
達成状況説明		<p>新規観光ガイド養成については、昨年新しくできた2コースについて引き続きフィールドワーク等の研修を行う必要があったため、今年度も既存観光文化ガイドの対象とした養成講座へ変更し、13回の講座を実施し育成支援を行った。</p> <p>町歩きコースの開発については先に述べた新規ガイドの育成から既存ガイドのスキルアップに変更したことに伴い、新規コースの開発から、昨年開発したコースのガイドスキル向上へ変更した。</p> <p>町のイベントと連動したモニターツアーの開催については、当初昨年開発した2コースをそれぞれ1回づつ実施する予定であったが、ある1コースについては落とし込みが足りないと判断して、2回実施したため合計3回の開催となった。</p> <p>民泊家庭の発掘に関しては、本事業で開拓した民泊家庭の他に民間事業所が開拓した民泊家庭もあり、町内にはどの程度の民泊家庭があるのか把握できていないため、今後の取組方針の判断材料とするための民泊家庭の現況調査を実施することとした。受け入れ状況や近隣市町村の状況を参考にし、今後町として取り組むべきかの判断をする。</p>					
成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）		基準値（26年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
	まち歩き参加者：180名	目標	(90名)	(180名)	()	()	()
		実績		90名			
	町内宿泊者：500名	目標	(400名)	(500名)	()	()	()
		実績		101名			
	進捗状況説明		<p>まち歩き参加者の実績が前年並みに終わった原因については、まち歩きのHPについて町役場へのバナー掲示のみで、周知が十分でなかった点が挙げられる。</p> <p>町内宿泊者の実績が目標に届かなかった原因としては、本町の民泊家庭は南部宿泊体験協議会に加盟しているが、今年の宿泊については2年前に営業を行うが、その当時協議会事務局の交代が上手くいかず、その影響で営業をストップしていたため宿泊者が減少している。</p> <p>既存ガイドを対象としたスキルアップ講座ではフィールドワークを中心にすえた実践型講座を展開した他、地域再生プランナーであり、観光町づくりの第一人者である井門隆夫氏をアドバイザーに迎え、町内の商工及び観光事業者向けに基調講演会を行った。大型MICE施設建設も決定したことより、町をあげて観光の機運が高まっており、ガイドに関してもH28年度からは毎日催行となった。</p> <p>体験メニュー開発に関しては旅行社のHPに町特集ページを掲載したことにより集客と連動できた点良かった。</p>				

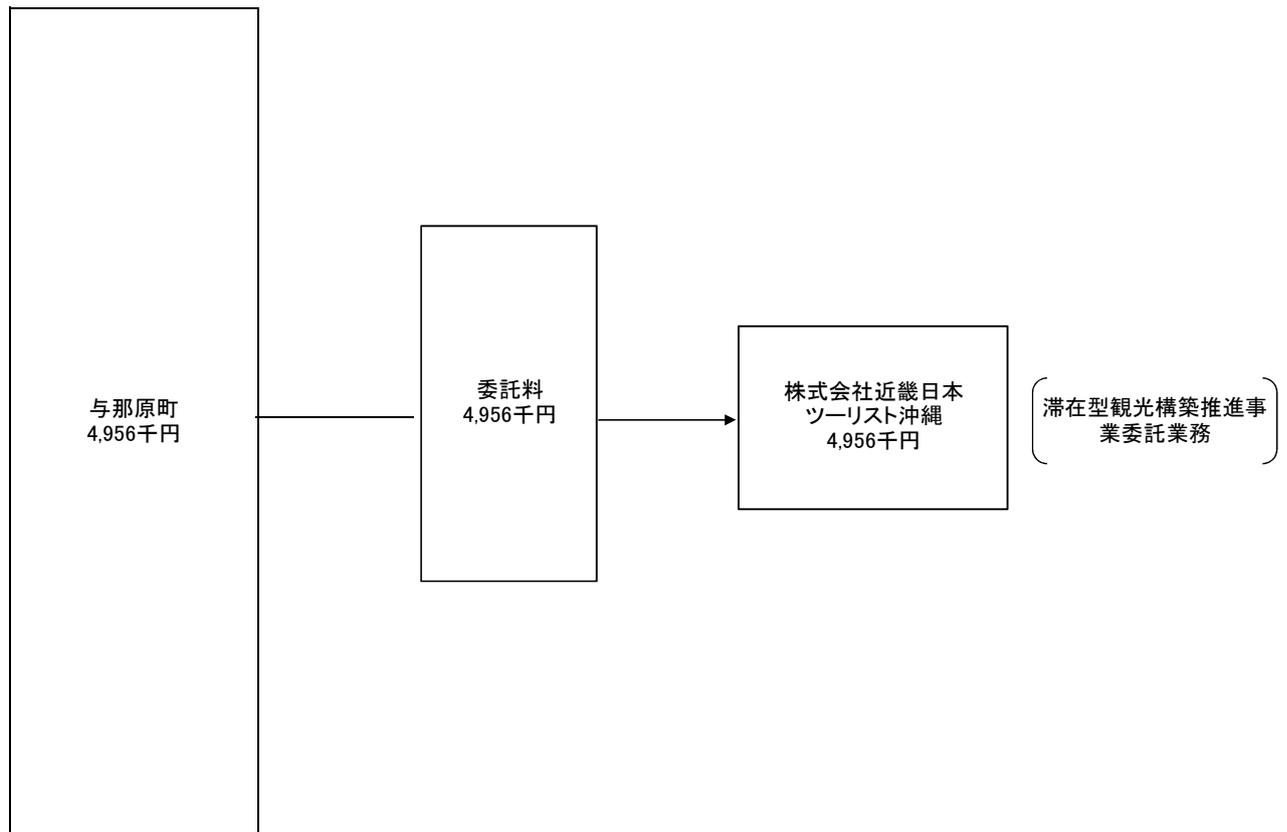
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	町観光文化ガイドの継続的な支援(組織構築、他組織との連携等)	継続的なスキルアップ支援により1期生を中心に、ガイド技術が向上している。今後は集客面で継続的な支援を行っていくとともに、今年度から商工会内部に設立された観光部会及びまちづくり推進協議会とも連携し、町全体で観光の機運を盛り上げた。
	まち歩き、体験事業者、民泊家庭の更なる連携 まち歩きの認知度が低く利用実績が伸び悩んでいるほか、予約受付等運営面での課題がある。	昨年度まち歩きガイドを中心としてたちあがった観光産業に参画する団体を中心に連携を深めてもらい、定期的に行政も参加した意見交換会を開催する。 リニューアルしたまち歩きのHPを町HPのみならず、近隣市町村、観光協会等へもバナー設置依頼を行うほか、町のイベント等と連携し認知度向上を図る。また、与那原町魅力発信事業を活用し、旅行代理店とも連携を取りながら広く周知を行う。

今後の取り組み方針

魅力発信事業等の観光かんれん事業と連携しながら、主に集客面で連携していくとともに、観光ガイドの自発的な活動を支援して行く。地域のまつりや、伝統文化等を活用した体験メニューの開発をおこなうとともに、旅行代理店を活用したモニターツアーやHP上での情報発信等を行い集客の強化を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
4,956	4,956	3,964	992	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名型プロポーザル方式により実績・経験等を勘案した上で選定しており、妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③ 商工会青年部南北交流支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(イ)		
	担当部署名	観光工商課（旧企画観光課）	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	若年交流を通して沖縄のPRを図るとともに将来のリピーターを生み出すことで誘客と観光振興につなげることを目的として、本商工会青年部と北海道浜中町商工会青年部が共同して行う「南北少年少女体験交流」事業へ支援を実施する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,000	2,000	2,000	2,500	
		(b) 予算現額	2,000	2,000	2,000	2,500	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	
		A. 計 (b+d)	2,000	2,000	2,000	2,500	
	B. 執行済額		2,000	2,000	2,000	2,500	
	うち交付金充当額		1,600	1,600	1,600	2,000	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100%	100.0%	
予算の状況の説明		当初の計画通り北海道浜中町との交流事業を実施でき100%の執行率となった。					
活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	交流派遣者数24人	目標	(交流派遣者数24人)	(交流派遣者数24人)	(交流派遣者数24人)	(交流派遣者数24人)	
		実績	交流派遣者数26人	交流派遣者数26人	交流派遣者数23人	交流派遣者数24人	
	浜中町交流団25名受入	目標	()	(浜中町交流団25名受入)	(浜中町交流団25名受入)	(浜中町交流団25名受入)	
		実績		浜中町交流団34名受入	浜中町交流団26名受入	浜中町交流団13名受入	
達成状況説明	平成28年2月に派遣交流(24名派遣)を実施し、商工会青年部は地元青年部と浜中町の主要産業の視察研修や、浜中町各地で本町ガイドブックの配布と町のキャラクターである「ヨナバルファイターズリー」の格好でPRやポスター掲示によるPRを行った。児童についても浜中町内の小学校の体育館に児童・教員を招いて与那原大綱曳や特産品のヒジキなどの特産品を紹介・発表する時間をいただき、ともに与那原町の産業・歴史・文化を発信することができた。交流団の受け入れについて目標達成できなかったのは、交流による新たな情報発信が十分でなかったことが要因であると思われる。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
	交流事業以外で、浜中町から本町を訪れる観光客30名	目標	()	(30名)	(30名)	(30名)	()
		実績		34名	26名	23名	
	進捗状況説明	平成28年2月に派遣交流(24名派遣)を実施し、商工会青年部は地元青年部と浜中町の主要産業の視察研修や、浜中町各地で本町ガイドブックの配布と町のキャラクターである「ヨナバルファイターズリー」の格好でPRやポスター掲示によるPRを行った。児童についても浜中町内の小学校の体育館に児童・教員を招いて与那原大綱曳や特産品のヒジキなどの特産品を紹介・発表する時間をいただき、ともに与那原町の産業・歴史・文化を発信することができた。交流事業以外での受け入れについて目標達成できなかったのは、交流による新たな情報発信が十分でなかったことが要因であると思われる。					

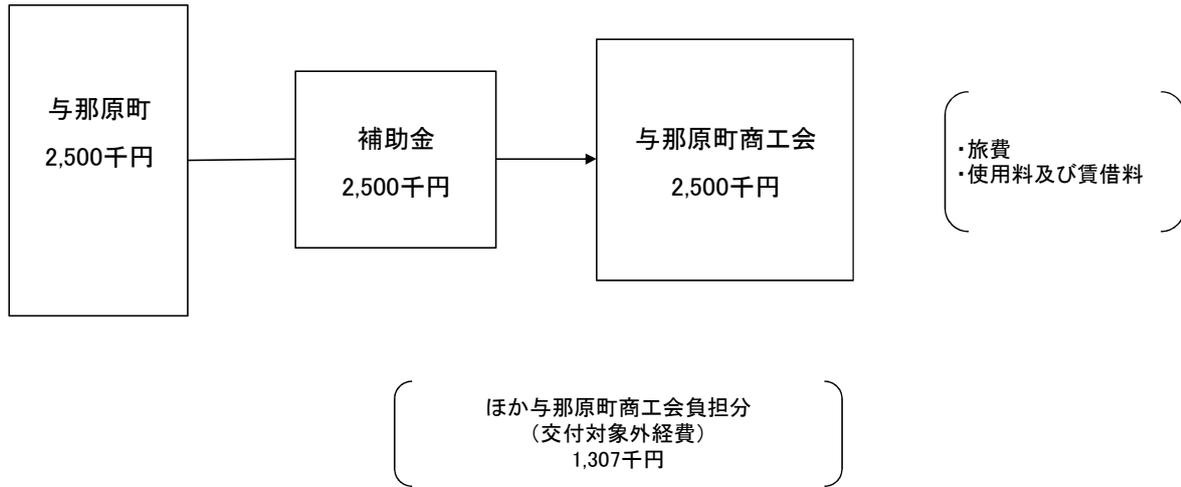
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>児童が実施している交流については、浜中町への情報提供という点で一定の成果を挙げていると思われるが、本町へ来町の動機となるほどの効果は得られていないと思われ、その結果商工会関係者の受け入れについて目標達成できていない一要ではないかと推察される。</p> <p>青年部の交流については「物流及び相互間での商取引、加工施設、観光施設等の先進事例の視察研修を行うなど産業振興に寄与することを目的に実施する」事業目的について、なかなか成果が挙げられない点について、今後青年部と協議していく必要がある。</p>	<p>浜中町の実施しているモンキーパンチミュージアムのブランディングによる地域活性化策について、本町ではまだうまく活用できておらず、今後平行して実施している商工会事業の「地域活性化イベント支援事業」「地域特産品・販路開拓支援事業」に活用できるよう連携を図っていく必要がある。</p> <p>また浜中町では牛乳が特産であり、実際にハーゲンダッツ等の原材料となっていること高品質なものであるため、これらを本町で流通できるような体制(活用する側の調整を含める)の構築を目指す。</p>

今後の取り組み方針

この事業により浜中町の特産品については豊富な情報があり、現在はちゃんぶる～市で海産物のみを販売しているが、幅広い物産を紹介提供することにより本町においては北海道の物産が手に入るという体制を整え、他との差別化を図り集客の手段とする。そのためにはこれまで以上に浜中町との連携を密にし、相互の商取引や加工施設を活用した商品の開発についてこれまで以上に力をいれて取り組むよう協議していき、成果目標を具体的に設定していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

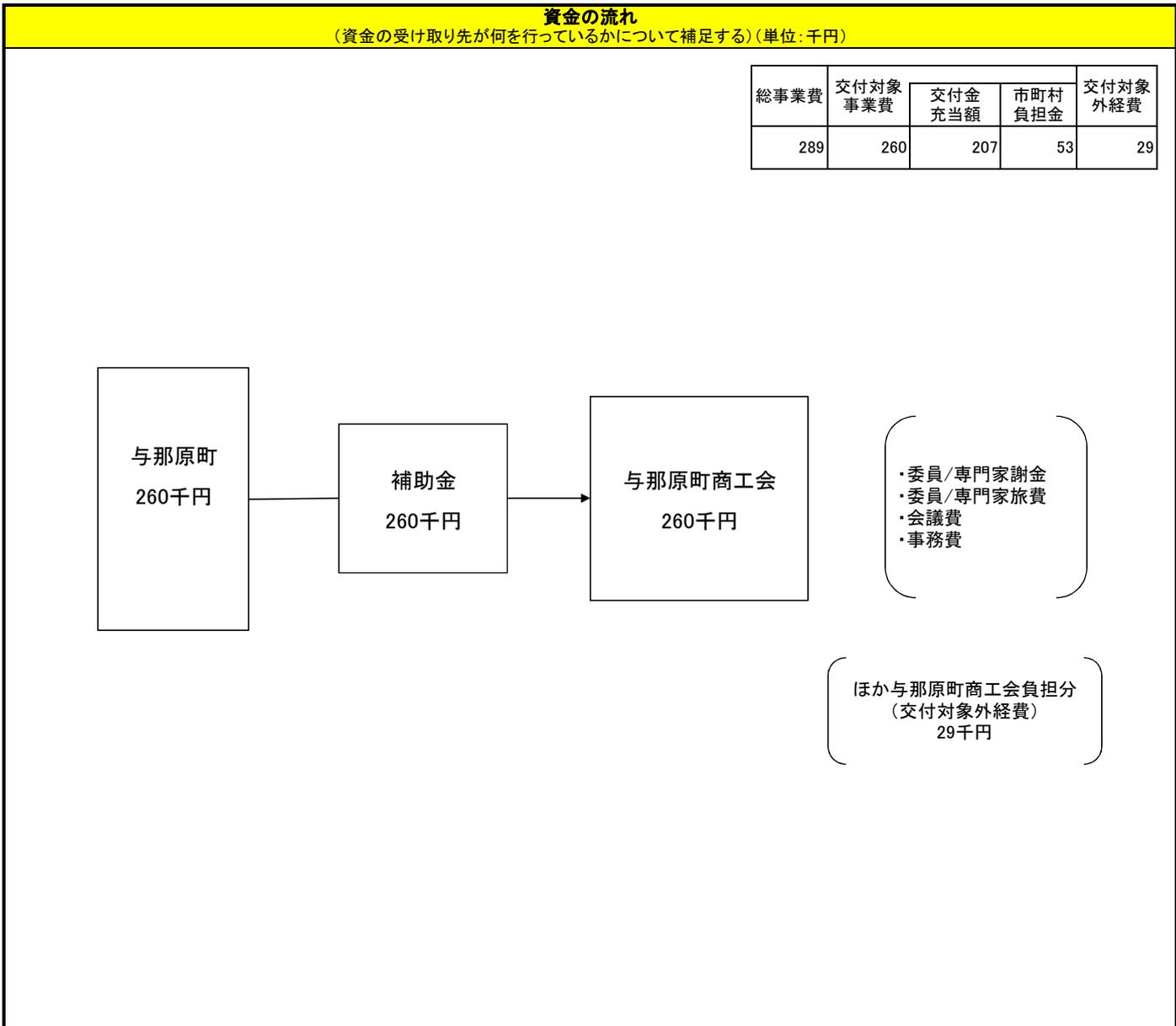
総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
3,807	2,500	2,000	500	1,307



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先としてはこれまでの事業実績をみても妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、予算の大部分を占める旅費等についても一般的な額であり、適正な規模である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○参加者も旅費等について自己負担しており、受益者との負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途についても適切に運用されている。

市町村名		与那原町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④ 地域特産品開発・販路開拓支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-(イ)		
	担当部課名	観光商工課（旧企画観光課）	事業実施（予定）年度		平成26～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	商店街・中心市街地の活性化と商業の振興 Ⅲ-1-(1)
事業内容	本町の周遊滞在型観光を推進するため、地域資源を活用した特産品の開発と販売促進、販路開拓を図る活動支援を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	予算の状況	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
		(a) 当初予算額	1,665	1,530			
	(b) 予算現額	1,665	1,530				
	(c) 増減額 (b-a)	0	0				
	(d) 繰越額	0	0				
	A. 計 (b+d)	1,665	1,530				
	B. 執行済額	270	260				
	うち交付金充当額	216	207				
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)	16.2%	17.0%				
予算の状況の説明	当初はブラッシュアップする品数を5品予定していたが、開発を受け入れる団体が予想より少なく1品のみの継続開発となったため、予算に執行率が17%にとどまった。						
活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）	達成状況					
		26年度	27年度	28年度	29年度		
	試作品開発支援 2品	目標	(試作品開発支援2品)	(試作品開発支援2品)	()	()	
		実績	試作品開発支援5品	試作品開発支援1品			
	一般向け試食会の開催 4回	目標	()	(一般向け試食会開催4回)	()	()	
		実績		一般向け試食会開催1回			
	専門家向け試食会の開催 2回	目標	()	(専門家向け試食会開催2回)	()	()	
		実績		専門家向け試食会開催1回			
	達成状況説明	試作品開発支援については受け入れ団体が1団体であるため、5品同時に実施すると成果が得られないと判断し1品に絞り込み、重点的に取り組む事により着実に進行することができた。試食会については一般向け、専門家向け共に開催回数は目標より少ないのは、両方から改善に向けての意見が十分に得られたと判断したため、1回のみの開催とした。					
	成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）	基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
目標			()	(2品)	(2品)	()	()
実績			5品	新商品開発なし			
ブラッシュアップした既存商品の売上を30%アップ		目標	()	()	(売上30%アップ)	()	()
		実績			売上横ばい		
進捗状況説明		当初は既存店舗で提供しているメニューのブラッシュアップをする予定で設定した成果目標であったが、受け入れ団体の商工会女性部が既存商品の開発は困難であるとうことで、既存商品のブラッシュアップができなかったため、「特産品開発2品」「売上30%アップ」という目標に対する取組を行うことができなかったため達成できなかった。もう一品の一般から上がったメニューについては27年度中もブラッシュアップを継続し、28年度中の商品として完成する予定。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>当初はお土産品となるものに加えてまちあるきの際に食べ歩きできるもの等を開発していく予定であったが、ブラッシュアップを実施する団体については商工会女性部のみであったため、当初2品のブラッシュアップを予定していたが、1品の実施となった。</p> <p>次年度以降については商品を完成させて販売していくが、商品の製造について長期的に女性部が継続していくのは困難であると考えられるため、町内事業所と連携して事業引継ぎ等を視野に入れて事業を遂行していく必要があると思われる。</p>	<p>現在特産品に使用している材料については、本町の特産品であるヒジキを活用しており、その他の材料についても県産品を使用するなどのこだわりをもって作成しているが、今後容器の選定やパッケージ作成の段階でいかに本町をPRできるものにしていくかという点で、より多くの女性部メンバーに参画していただき、様々なアイデアを取り込むことでPR効果の高い商品にしていく必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>28年度については試作品の賞味期限の設定について専門家を招聘して、期限の長くなるように指導を受けて、また容器の選定、パッケージの作成の段階でより町をPRできるような製品に仕上げていく。</p> <p>また、完成品については町のイベントや産業まつり等にも出店し、その中で試食等を行うことにより最終的な意見等を取り入れた上で、最終的な完成品として商工会女性部のみではなく、商工会会員及び町内事業所の協力をいただき町内での販売へつなげる。加えて近隣市町村の観光協会等と連携して販売促進を図っていくことにより、PR効果を高めていく(既に南城市観光協会のがんじゅ一駅にて当該特産品販売の確約を得ている)。</p>		



資金の流 れ、費 目・使 途の 点検・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定として、商工会は以前にも商品開発に携わった経験もあり、適切であると考え。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については当初招聘予定であった専門家(県外)との折り合いがつかず、予算の執行率が低いものとなった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係についても商工会で自己負担もしているため妥当である
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途についても必要なものに限定されている。

市町村名	与那原町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	観光地美化・緑化きれいなまちづくり事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(ウ)	
担当部課名	まちづくり課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	町内散策コースの美化・緑化を促進し、観光客が安心・安全で気持ち良く町内を回遊できるように環境美化・整備を行い観光振興を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	22,000	20,920	22,765	21,482	
		(b) 予算現額	21,272	20,920	21,233	21,482	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 728	0	▲ 1,532	0	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	
		A. 計 (b+d)	21,272	20,920	21,233	21,482	
	執行状況	B. 執行済額	21,272	20,549	20,651	19,788	
		うち交付金充当額	17,018	16,439	16,521	15,830	
		次年度繰越額	0	0	0	0	
		執行率 (%) (B/A)	100.0%	98.2%	97%	92%	
	予算の状況の説明	不要額の860千円は、雨天等により出勤日数が減少したことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	散策コースの環境美化	目標	(美化清掃実施)	(美化清掃実施)	(美化清掃実施)	(美化清掃実施)	
		実績	美化清掃実施	美化清掃実施	美化清掃実施	美化清掃実施	
	散策コースへ花々、樹木の植栽1.0km	目標	(緑化工事2.0km)	(緑化工事2.0km)	(緑化工事0.6km)	(緑化工事1.0km)	
		実績	緑化工事0.9km実施	緑化工事0.9km実施	緑化工事0.6km実施	緑化工事1.0km実施	
達成状況説明	散策コースを区域に分けて順序よく定期的に美化清掃を繰り返すことで、環境の美化を維持している。今年度も町道板良敷沿岸線の残りの区間へマニラヤシ33本、タコノキ3本、アカテツ7本及び1,081㎡の張芝の植栽を行い来訪者が気持ちよく回遊できる環境を整えることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	観光客が安心安全に、沖縄らしい風景を楽しみながら回遊できる環境の整備	目標	()	(100%)	()	()	()
		実績		80%			
	植栽工事進捗率71% (全体計画7km、うち完了5km)	目標	()	(71%)	()	()	()
		実績		85%			
	進捗状況説明	散策コースを繰り返し美化清掃を行うことで、年間を通して、安定的にきれいな環境を提供できている。ただ、夏場は草の成長が早く整備がおいっていない状況。効率よくこなせるように工夫していく。板良敷沿岸線の植栽については、今年度で完了し緑化を推進することができた。平成28年度は観光交流施設の供用開始に伴い、周辺を緑化することで、観光地としての環境整備を進めていく。					

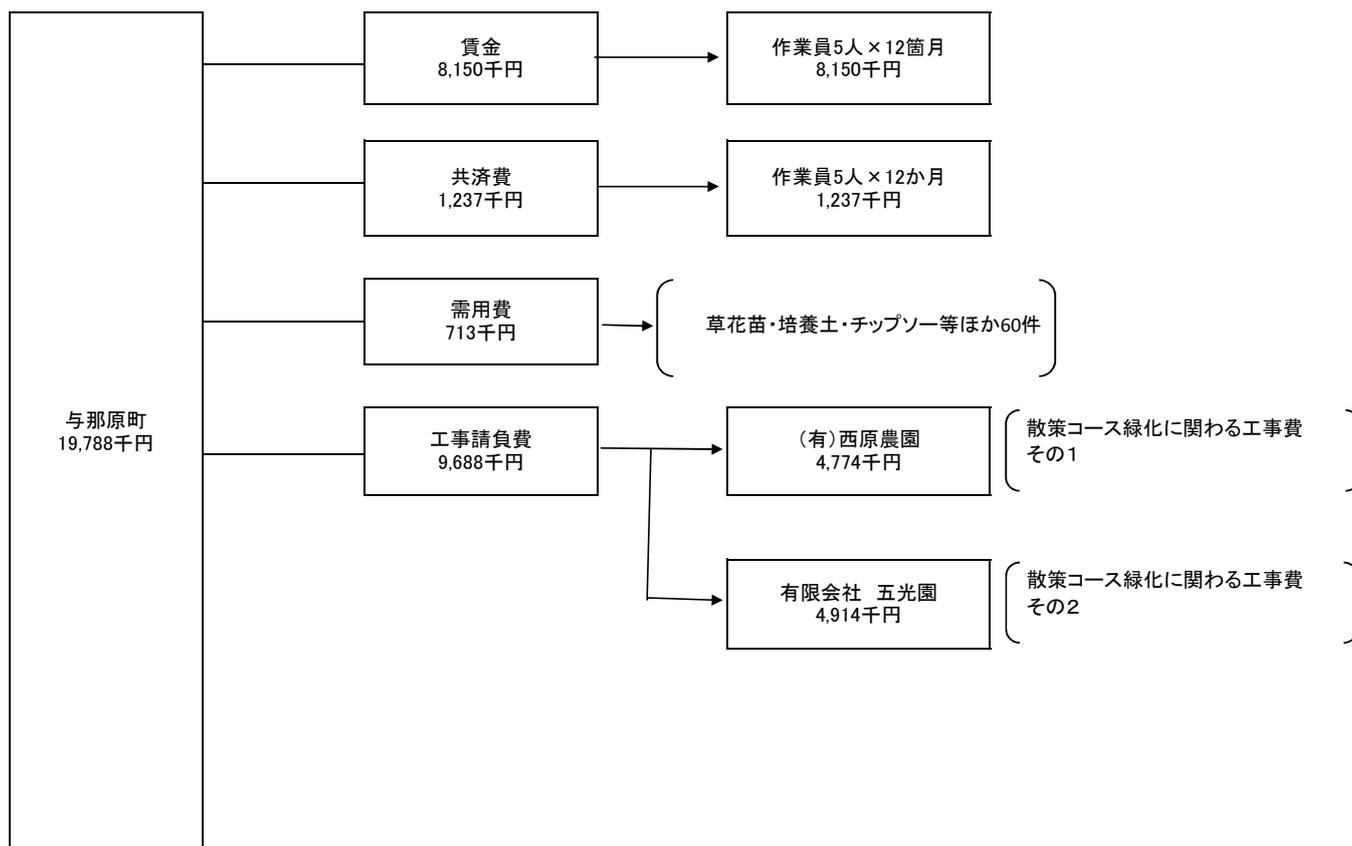
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	散策コースを定期的に美化清掃する事で、以前に比べ来訪者が容易に観光地を巡ることが可能となり、少しずつ観光地としての周知へとつながっている。観光地としてのアピールに欠けているマイナーな現状を打開するには、現在の活動を維持し、更なる美化、緑化を推進していく事が観光地としての地位を確立していくための重要なカギとなる。美化・緑化を推進していく中で、これまでは植栽に重点をおいてきたが、今後、長期にわたり美しく緑豊かな環境を保っていくには、植栽後の維持、管理が課題となる。	美化・緑化を推進していく上で、今後の課題となるのは、植栽を終えた花木の維持・管理で、板良敷沿岸線の木々については、日々の海風や台風等の塩害による枯れを防ぐため、定期的な木肌の洗浄を行い、夏場の乾燥した時期には定期的な灌水を行う。又、成長不良な花木については施肥を行う。

今後の取り組み方針

植栽工事については、ある程度終わったので、後は、花々や樹木の成長へと力を入れ維持・管理へと移行していく。また、草刈作業についても今まで通り5名の作業員を配置し散策コースの美化に努めていく。草刈機の購入により効率よく作業が行えるため、散策コースを細部まで行き届いた管理を行い更なる美化緑化を推進していく。
平成28年度は観光交流施設の供用開始に伴い、周辺を緑化することで、観光地としての環境整備を進めていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
19,788	19,788	15,830	3,958	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負事業者は指名競争入札により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であると考えている。 ○予算規模についても複数業者に見積もりを依頼し定めたものであり、適正な規模となっている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

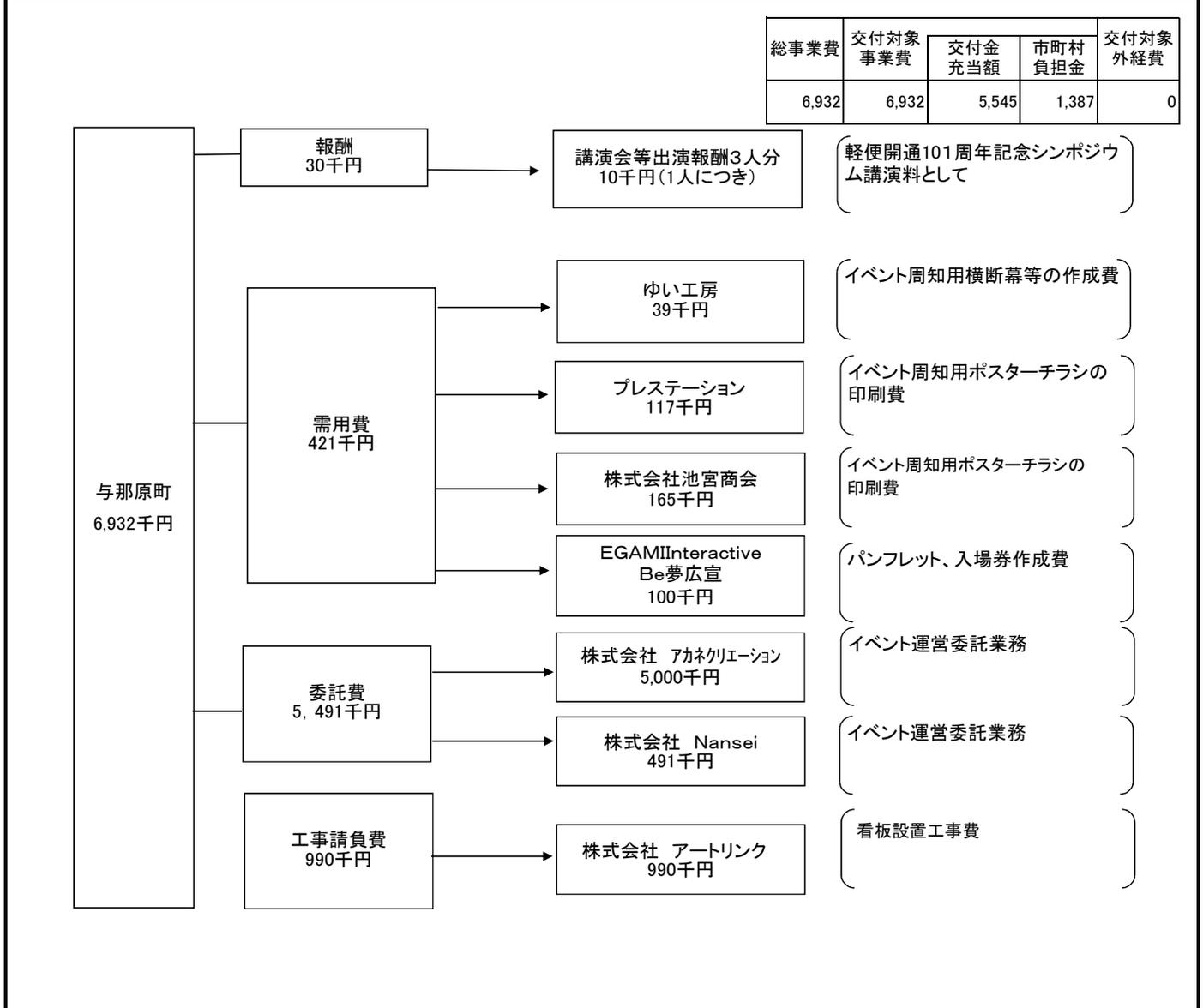
市町村名		与那原町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥ 与那原町魅力発信事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-(イ)		
	担当部課名	観光商工課（旧企画観光課）	事業実施（予定）年度		平成26～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	与那原町の魅力を県内外に発信するため、また観光客の誘致を図る為、各種事業により整備した新たな観光資源等を活用し、各種イベントを実施する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	12,648	6,060			
		(b) 予算現額	12,648	7,060			
		(c) 増減額 (b-a)	0	1,000			
		(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)		12,648	7,060			
	B. 執行済額		12,420	6,932			
	うち交付金充当額		9,936	5,545			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		98.2%	98.2%			
予算の状況の説明		事業を実施するに当たり補助金に該当しない経費については、単独費用として計上するなどしたため、執行率が若干下がっているが、おおむね適正に執行できたと考えている。					
活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	復元した軽便与那原駅舎をPRするイベントの開催	目標	(記念事業の実施)	(1回)	()	()	
		実績	記念事業実施済	3回			
	来訪者と町民の交流施設をPRするイベントの開催	目標	()	(1回)	()	()	
		実績		2回			
ヨナバルマジク(町魚)PR看板の設置	目標	()	(1基)	()	()		
	実績		1基				
達成状況説明		与那原町立軽便与那原駅舎展示資料館をPRするためのイベントを①沖縄軽便鉄道開通記念講演会・②写真で振り返る和那原町と軽便与那原駅舎・③新収蔵パネル展の3回実施した。当該資料館の活用方法としては新たな取り組みであったが、参加者からも好評であり資料館の内部、外構部分等の活用として新たな魅力を発信できたと考えている。来訪者と町民の交流施設(与那原町観光交流施設)のPRイベントでは、開館式でのイベント及びスポーツイベントについては多くの来場者があり好評であったが、文化イベントについては思うような集客が得られなかった。ヨナバルマジクPR看板の設置については、海に面している和那原をPRできる看板の設置により、海の魅力を発信することができた。					
成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
	軽便与那原駅舎をPRするイベント150名参加	目標	()	(950名)	(150名)	()	()
		実績		13,468名	349名		
	来訪者と町民の交流施設をPRするイベント600名参加	目標	()	()	(600名)	()	()
		実績			1,359名		
	ヨナバルマジクPR看板設置による和那原町の魅力発信	目標	()	()	(発信)	()	()
実績				発信できた			
進捗状況説明		軽便与那原駅舎展示資料館のPR事業は当初の目標であった参加者を達成することができた。イベント内容を新聞等により取材していただくことにより、展示資料館のPRが図られたと考えている。来訪者と町民の交流施設(与那原町観光交流施設)についても当初目標を達成することができた。開館時のイベントとして本町の文化協会と連携して実施したことで来館者数の増加につながったと考えている。また、スポーツイベントとして町では大きな大会等が開催されることがない「バドミントン」を実施したことで、本施設を活用した新たなバドミントン競技に係るイベント等のイメージを構築することができたと考えている。ヨナバルマジクPR看板設置については、看板の設置により来町者にヨナバルマジク等の和那原の海の魅力を発信できたと考えている。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>軽便与那原駅舎展示資料館及び与那原町観光交流施設については新しい施設であったこともあり、今回の集客につながったと考えている。継続して集客につなげていくためには、定期的にイベント等により町内外へ発信していく必要がある。</p> <p>また、当該施設だけではなく本町に多くの来訪者が来ていただくための取組PRも継続して行う必要がある。</p>	<p>軽便与那原駅舎展示資料館については、内部の展示室等について定期的な見直しを行い、常に変化のある魅力ある展示物の設置を図る必要がある。</p> <p>与那原町観光交流施設及び軽便与那原駅舎をPRするためのイベントの実施を民間と連携して定期的に行う必要がある。</p>

今後の取り組み方針

平成28年度からは両施設について指定管理制度により民間に管理が変わっており、更なる施設の活用が見込めると考えている。また、本年度においても本事業により与那原町の魅力を発信するための事業を実施し、商工会等との連携も強化していることから、継続して与那原町の魅力を発信していきたいと考えている。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先の選定については、本町の契約、会計規則に基づき、見積りによる競争、プロポーザル等により選定しており適正である。</p> <p>○複数見積等により積算しており事業規模は適正である。</p> <p>○費目、用途については実施段階で十分な検討を重ねており、目的に即し、必要なものである。</p>
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

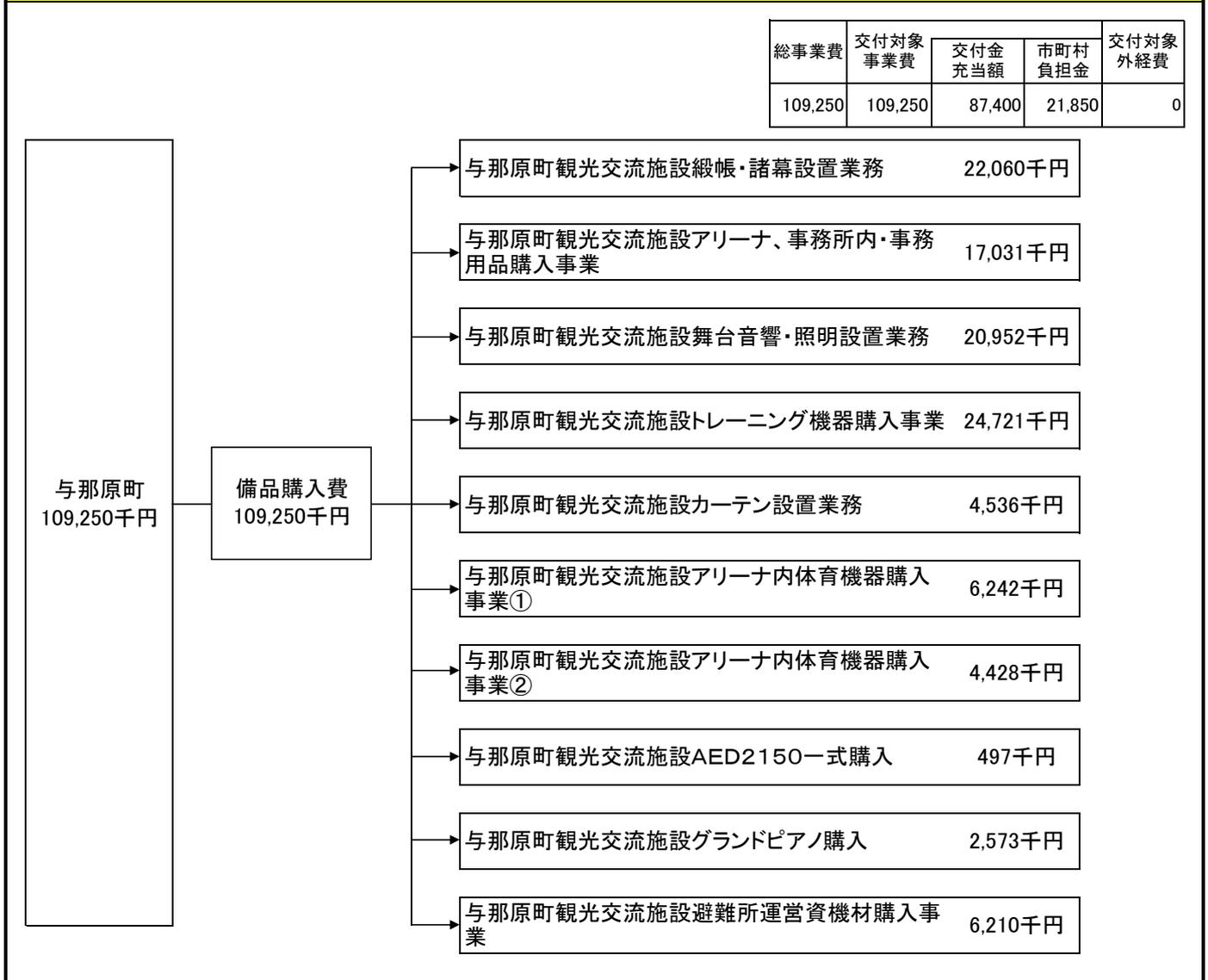
市町村名		与那原町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-① 来訪者と町民の交流施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(ウ)		
	担当部課名	生涯学習振興課	事業実施(予定)年度		平成24~27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	来訪者と町民が親睦を深める交流会等の開催が可能な施設を整備し、将来のリピーターを生み出し持続可能な観光振興を図る。また、台風や地震といった災害時には来訪者の避難施設として活用し、安全安心な観光受け入れ体制を整備し本町の観光振興を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度	27年度	
		(a) 当初予算額		931,000		482,592	113,882
	(b) 予算現額		931,000		445,504	113,882	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 37,088	0	
	(d) 繰越額	50,000	0	920,707	0	0	
	A. 計 (b+d)	50,000	931,000	920,707	445,504	113,882	
	B. 執行済額	50,000	10,292	928,945	432,205	109,250	
	うち交付金充当額	25,564	8,234	743,156	345,764	87,400	
	次年度繰越額	0	920,707	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	1.1%	99.8%	97%	96%	
予算の状況の説明	計画通り執行する事ができているが、執行率が若干低い。不用額4,632千円については、入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
	観光交流施設の必要備品整備 ・体育器具・緞帳・カーテン・事務器具 ・トレーニング機器・舞台音響照明・ピアノ等	目標	27年度	28年度	29年度	30年度	
		実績	観光交流施設の備品整備済				
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	若干の備品の変更はあったが、計画通り観光交流施設の備品を整備する事ができ、平成27年10月には「与那原町観光交流施設」として施設をオープンする事ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(32年度)
	・観光交流施設の運用開始 平成27年度 10月~3月 来場者45,000人	目標	()	(10月運用開始 来場者 45,000人)	()	()	()
		実績		10月運用開始 来場者18,700人			
	【中間目標】	目標	()	()	()	()	(①90,000人 ②7,500人)
①年間来場者数 ②月来場者数	実績						
進捗状況説明	計画通り平成27年10月に施設をオープンする事ができたが、来場者数に関しては目標の45,000人を大きく下回り18,700人となった。目標の数値に近づけるためには、通常の施設利用のほかに週末や祝祭日でのイベント開催が必要である。来場者数は10月後半のオープンであった為、年間目標の半分の人数として45,000人(年間来場者数90,000人の半分の数値)を目標に運営を行ったが、周知不足や正月休みを挟んだ為に目標の45,000人を大きく下回り18,700人という実績となった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	若干の備品の変更はあったが、施設をオープンするために必要な備品を揃え、平成27年10月に「与那原町観光交流施設」として施設をオープンする事ができた。しかしながら、平成27成果目標(指標)に掲げた来場者数45,000人(今年度は10月のオープンだった為、年間の90,000人の半分を目標とする)を達成する事ができなかった現状がある。今後は毎日の施設利用者の増加と週末、祝祭日の来館者増加に向け事業計画を立てて、運営していく必要がある。	町内・県内広報誌や、あらゆるマルチメディアを活用し施設のPR活動を行い、施設の継続的な活用を行っていく。また、県内外に施設をアピールするために施設を活用したイベントの開催や誘致を積極的に行っていく。

今後の取り組み方針

平成27年10月から翌年3月までの間に18,700人の方が施設を使用したが、目標来場者数の45,000人には及ばなかった。今後、目標来場者数に近づける為には平日、午前中の各種教室の開催や夏休みや週末、祝祭日に多くの来場者が参加できるイベント開催など、施設の稼働率を上げていく。平成28年度から同施設の管理運営は指定管理者制度を導入しており、民間の能力と経験を十分に活用しながら、町と一体となってあらゆる形で施設のPR活動とイベントの開催誘致を共に行い、町内外からの施設利用者の増加や観光客の誘客を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流し、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は入札や3社見積を取っての随意契約など、財務関係規則による契約を行っている為、適正である。 ○予算規模は執行率も高く適正である。 ○費目・用途については、事業に必要なものとして選定しており問題はない。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町
------	------

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-① 軽便鉄道与那原駅跡公園整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(ウ)
			観光客の受入体制の整備
担当部課名	観光商工課（旧企画観光課）	事業実施（予定）年度	平成24～27年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容
与那原駅跡を復元し、軽便鉄道の歴史を感じる与那原町の新しい観光スポットとして公園、外構、内部展示室及び施設案内板設置等の整備を行い、本町の観光振興を図る。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他（ ）

		24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	-	130,000	-	41,521	25,950
	(b) 予算現額	-	142,000	0	39,778	21,950
	(c) 増減額 (b-a)	0	12,000	-	▲ 1,743	▲ 4,000
	(d) 繰越額	52,673	0	117,699	0	0
	A. 計 (b+d)	52,673	142,000	117,699	39,778	21,950
	B. 執行済額	52,673	24,301	125,446	39,362	19,607
	うち交付金充当額	42,138	19,441	100,357	31,489	15,684
	次年度繰越額	0	117,699	-	-	-
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	17%	88%	99%	89%
	予算の状況の説明	当初予定していた、整備についてはおおむね達成できた。不用額については、駐車場整備予定の土地から当時のレールが出てきてしまったため、文化担当課の調査進捗を見て、施工の有無を判断することとなっていたが、調査自体が年度末となってしまったこともあり、その分の執行残が多く残ってしまったこと、入札等による執行残額により執行率が80%台となってしまったと考えている。				

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		27年度	28年度	29年度	30年度
展示品の作成 (写真等を展示用として加工する) 20点	目標	(20点)	()	()	()
	実績	50点			
外構整備 607㎡	目標	(外構整備607㎡)	()	()	()
	実績	外構整備632㎡			
施設案内板の設置	目標	(案内板の設置)	()	()	()
	実績	案内板の設置完了			
達成状況説明	軽便与那原駅舎展示資料にて展示する展示物については、当初予定していた資料よりも多く集まったことから、多くの展示品の作成につながった。外構整備については、駅前広場として整備し供用開始ができたので今後の集客につながると考えている。案内板の設置については、実施することができたが、メインとなる国道部分に、民間の看板など多くの看板広告があり、設置スペース少なかった。				

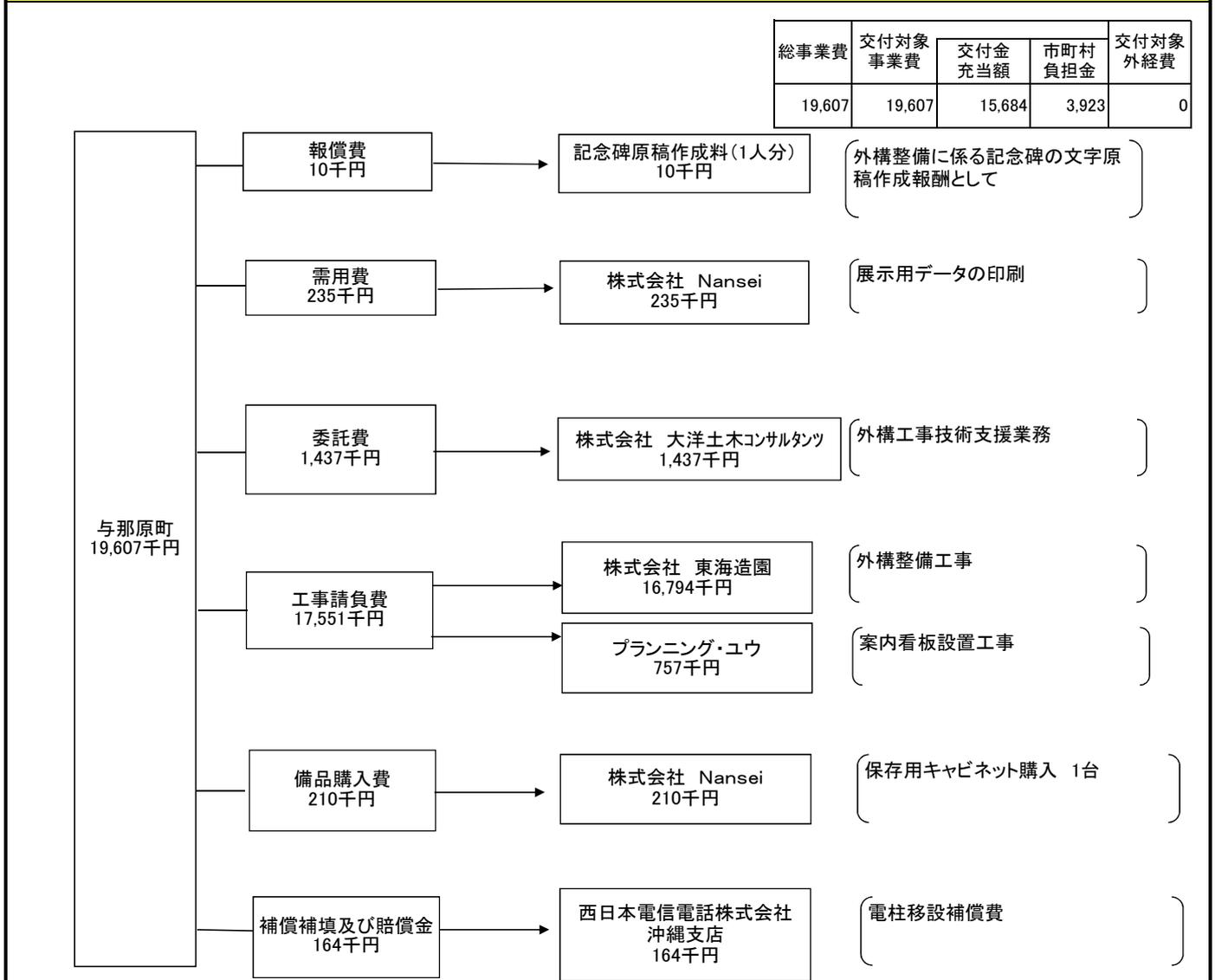
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
			平成27年度来場者数 目標9,000人	目標	()	(9,000人)
		実績	5,540人			
進捗状況説明	平成27年度中において、目標であった9,000人を達成することができなかった。要因としては、当初予定していた各種イベントとの連携による集客ができなかったことが大きな要因であると考えている。今後は各種イベントとの連携や集客力の高いイベントを実施することが必要であると考えている。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>平成27年度中において、目標であった9,000人を達成することができなかった。要因としては、当初予定していた各種イベントとの連携による集客ができなかったことが大きな要因であると考えている。今後は各種イベントとの連携や集客力の高いイベントを実施することが必要であると考えている。</p> <p>また、平成27年度に設置した施設案内板についても、設置個所が限られており、見えにくいなどの意見があるため、継続して設置個所及び方法の検討が必要であると考えている。</p>	<p>当該施設をPRするためのイベント等を多く実施し、また、各種団体が実施するイベントと連携し集客数の増加を目指す。</p> <p>また、案内板の設置及びHP等により容易に情報を取得できる取り組みが必要であると考えている。</p>

今後の取り組み方針

平成28年度からは民間のノウハウを活用する為、指定管理制度を導入し管理を実施している。当該指定管理、与那原町、商工会及び観光団体と連携し、集客の増加につなげていくこととしている。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・評価の点検	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先の選定については、本町の契約、会計規則に基づき、入札及び見積りによる競争、入札等により選定しており適正である。</p> <p>○予算規模については不測の事態及び入札残により執行率が前年度よりも低くなっているが、残額については変更申請により減額をしておろおむね適正だったと考えている。</p> <p>○費目、用途については実施段階で十分な検討を重ねており、目的に即し、必要なものである。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

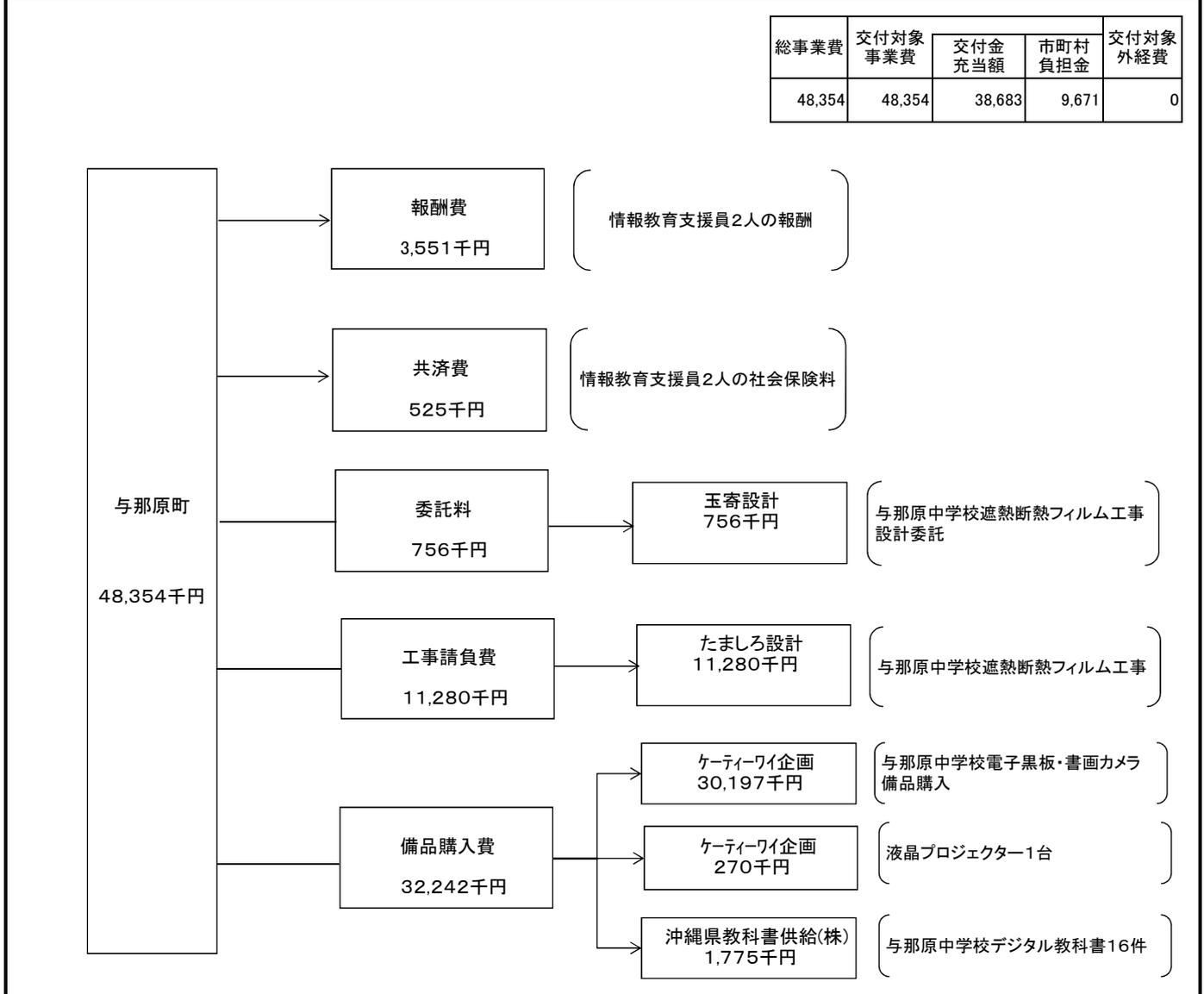
市町村名		与那原町											
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】													
事業番号・事業名	4-① 学校ICT環境整備等による学習意欲学力向上推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(4)-ア								
	担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進						
					Ⅲ-3-(1)								
事業内容													
児童生徒の学力向上及び人材育成を目指し、わかりやすい授業を行う為の電子黒板等ICT機器を、中学校の全教室に整備する。また教師のICTを活用した授業改善及び児童生徒のICT活用を支援する情報教育支援員を、各小学校へ配置する。													
実施方法													
<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()													
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	予算の状況	24年度		24年度(繰越)		25年度		26年度		27年度			
		(a) 当初予算額	11,395	0	7,195	4,123	55,913	(b) 予算現額	11,986	6,810	4,123	51,808	
	(c) 増減額(b-a)	591		▲ 385	0	▲ 4,105	(d) 繰越額		9,173				
	A. 計(b+d)	11,986	9,173	6,810	4,123	51,808	B. 執行済額						
	うち交付金充当額	2,249	6,582	5,444	3,263	38,683	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	23.5%	89.7%	99.9%	98.9%	93%	予算の減額は10月の工事請負費の入札残によるもので、執行残分を4-④町立学校運動環境整備事業へ事業間流用した。不用額3,454千円は備品購入費の入札による残、人件費の出勤実績の差額等が生じたためによるものである。						
	予算の状況の説明												
	活動目標(指標)及び達成状況		H27活動目標(指標)		達成状況								
					24年度		25年度		26年度		27年度		
	電子黒板一式(設置教室への遮光フィルム整備)		目標								(21台 中学校にフィルム整備)		
実績									31台 中学校にフィルム整備				
情報教育支援員の配置		目標		(1人)		(2人)		(2人)		(2人)			
		実績		1人		2人		2人		2人			
個に応じた情報教育の充実		目標								(10講座 受講生80名)			
		実績								10講座 受講生64名(32名)			
デジタル教科書購入		目標								(与那原中学校の デジタル教科書)			
		実績								与那原中学校の デジタル教科書			
達成状況説明		計画通り、中学校の全ての教室に電子黒板の設置を行い、デジタル教科書の整備も行った。 情報教育支援員を計画通り小学校(2校)に1名ずつ配置した。 PC教室での授業を行う担任の支援や児童を直接支援することで、担任や児童のコンピューターリテラシーの向上が図られた。 夏休み期間中に行われた個に応じた情報教育の充実については、一般を含む64名中、32名の児童生徒が参加した。 その結果、小中学校において、情報教育が充実した。											
成果目標(指標)及び進捗状況		H27成果目標(指標)		基準値(24年度)		26年度		27年度		28年度		目標値(年度)	
パソコンの基本操作習得目標到達率		目標		(-)		(65%)		(60%)				(9割以上)	
		実績				76%		77%					
全国学力・学習状況調査での全国平均との差		目標		(-)		(-)		(小学校+0.4 中学校-6.0)				(-)	
		実績				-		小学校+0.62 中学校-1.82					
進捗状況説明		情報教育支援員を小学校(2校)に1名ずつ配置したことによって、PC教室での授業を行う担任の支援や、児童を直接支援することで、担任や児童のコンピューターリテラシーの向上が図られたことがアンケートの結果からわかる。しかし、課題となっている中学年でのキーボードを使ってのローマ字での文字入力がかたがた伸びずにいるため、さらなる支援に取り組む。 全国学力・学習状況調査での全国平均との差は小学校においては全国平均正答率を超えている。中学校においても5ポイント以内になるなど確実に縮まっており、ICT機器を活用した授業改善が行われたことで、児童生徒へ授業内容の理解が図られている。											

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>中学校の全ての教室へ電子黒板を設置し、ICT環境の整備が行われた事で、全ての教科でのICTを活用した効果的に理解を深める授業展開が図られるなど、指導の工夫改善が見られた。今後は小学校へも電子黒板を設置するなどICT機器の環境整備に努め、デジタル教科書や教育支援ソフトの効果的な活用方法についても研修が必要である。</p> <p>情報支援員の配置により、小学校のコンピュータリテラシーについて、高学年ではインターネットによる情報収集や、プレゼンテーションの活用等の向上が確実に図られている。今後は、中学年でローマ字による文字入力についての課題改善に向けて新たな対応策が必要である。</p>	<p>小学校でもICT機器や視聴覚機器が日常的に授業や教育活動で活用されるよう、電子黒板等の整備が必要である。さらにデジタル教科書、教育支援ソフトの活用についても研修を行い、資質の向上に努める必要がある。</p> <p>情報支援員を活用し、ローマ字による文字入力について補習等の支援が必要である。</p>

今後の取り組み方針

小学校の全教室に電子黒板を設置し、デジタル教科書や学習支援ソフトを効果的に活用した学力向上を図るための授業改善に努める。
 情報教育支援員を活用した夏期休業中における情報支援教室の実施について、ローマ字による入力が不十分な児童へ参加の呼びかけと周知に努め、情報支援教室において、スキルアップに繋がるよう指導を行う。

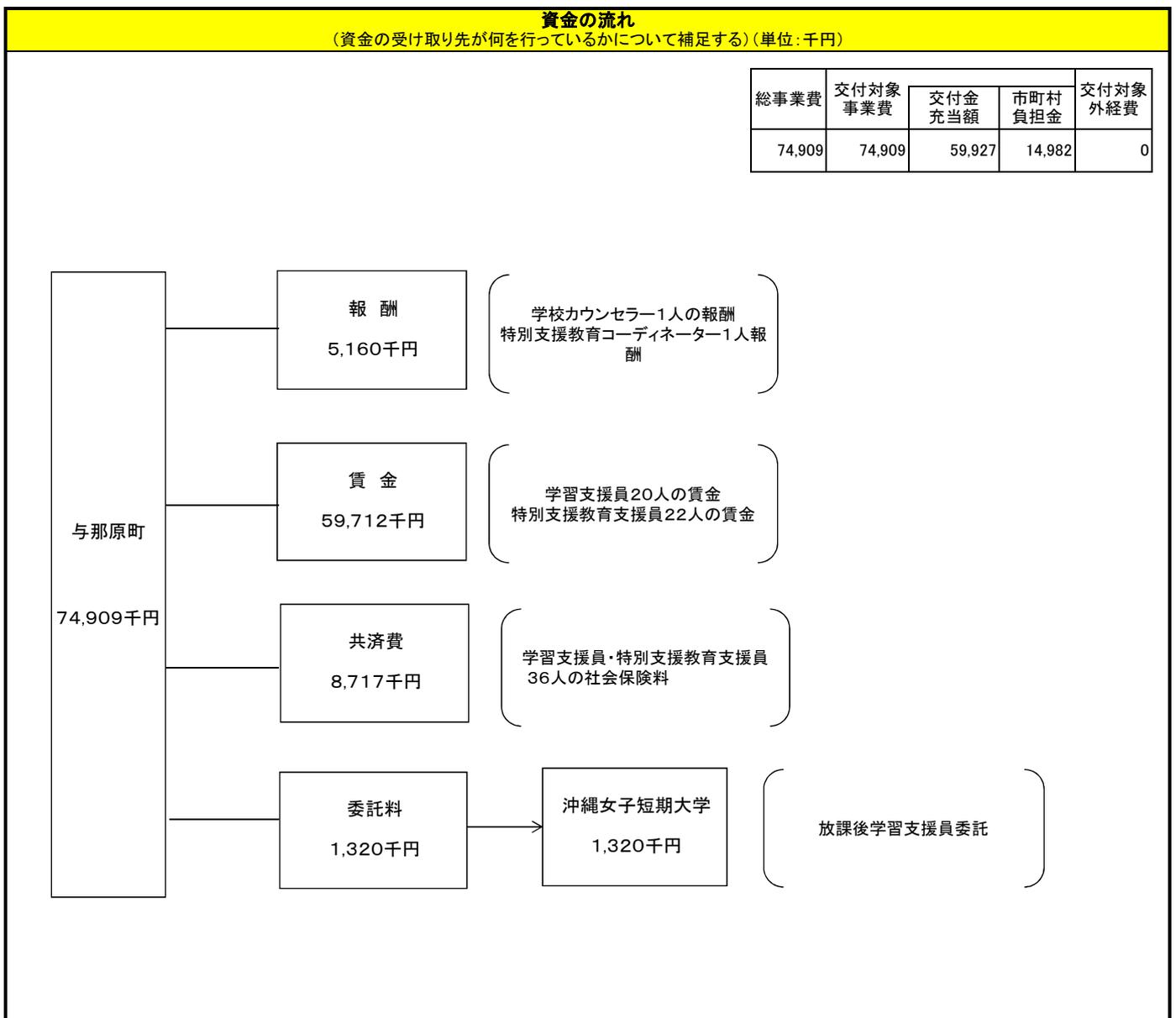
資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 用途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の 用途の 流れ、 費目・ 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は指名競争入札により選定しており妥当である。 ○予算規模は「与那原町教育委員会嘱託員設置規程」により見合った適正な規模となっている。 ○費目・用途については事業目的に必要であり、合致している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②		きめ細かな児童生徒支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
	担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	特別な支援を要する児童生徒に対し、早期からの支援や適切な支援を行う為の特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラーの配置を行い、学習の遅れ気味な児童生徒に対し、個に応じたきめ細かな支援を行う為の学習支援員・特別支援員を配置する。また放課後の児童の学びのサポートとして、放課後学習支援員を配置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	14,702	57,400	63,194	77,688	
		(b) 予算現額	5,291	55,636	59,513	77,688	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 9,411	▲ 1,764	▲ 3,681	0	
		(d) 繰越額					
		A. 計 (b+d)	5,291	55,636	59,513	77,688	
	B. 執行済額		4,702	52,402	59,185	74,909	
	うち交付金充当額		3,762	41,921	47,348	59,927	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		88.9%	94.2%	99%	96%	
予算の状況の説明		当初計画通り、事業内容はすべて実施することが出来た。2,779千円の不用額は人件費・委託料での出勤実績の差額等が生じたため。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	学習支援員の配置	目標	(学習支援員5人)	(学習支援員17人)	(学習支援員21人)	(学習支援員20人)	
		実績	学習支援員5人	学習支援員17人	学習支援員20人	学習支援員20人	
	特別支援教育支援員の配置	目標	(—)	(特別支援教育支援員11人)	(特別支援教育支援員11人)	(特別支援教育支援員20人)	
		実績	—	特別支援教育支援員11人	特別支援教育支援員12人	特別支援教育支援員22人	
	スクールカウンセラーの配置	目標	(スクールカウンセラー1人)	(スクールカウンセラー2人)	(スクールカウンセラー1人)	(スクールカウンセラー1人)	
		実績	スクールカウンセラー1人	スクールカウンセラー2人	スクールカウンセラー1人	スクールカウンセラー1人	
	特別支援教育コーディネーターの配置	目標	—	—	—	(特別支援教育コーディネーター1人)	
		実績	—	—	—	特別支援教育コーディネーター1人	
放課後学習支援員配置	目標	—	—	—	(4人)		
	実績	—	—	—	4人		
達成状況説明	児童生徒の学力向上のために、小中学校に学習支援員を配置し、授業にあたる教師と連携を図りながら個に応じた支援を行うことで学力向上が図れた。また、特別支援教育支援員を配置し、特支CDや担任等と連携を図りながら、個別の実態に応じた支援を行うことで、安全・安心な学習環境の充実が図れた。スクールカウンセラー、特別支援教育CDの配置により、担任、保護者、支援員等の連携が図れた。放課後学習支援員を配置することで、学習の振り返りが行われ学力や、学習習慣の定着が図られた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		24年度	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	全国学力調査等での、全国との学力差を縮める	目標	全国学力調査の平均正答率において、全国との差を前年度比2%縮める	全国学力調査の平均正答率において、全国との差を前年度比0.2ポイント縮める	全国学力調査等での全国との学力差縮小	小学校+0.4 中学校-6.0	全国学力調査等での全国との学力差縮小
		実績	全国平均との差が小中平均で前年度比2.8ポイント縮めた	全国平均との差が小中平均で前年度比4.1ポイント開いた	小学校は全国平均を超え、中学校は6.2ポイント開いた	小学校+0.62 中学校-1.82	
	【参考指標】当該事業でサポートした児童生徒のうち、学校復帰など改善目標 年間1～2名減	目標	当該事業でサポートした児童生徒の不登校者数を前年度比1～2名減	当該事業でサポートした児童生徒の不登校者数を前年度比1～2名減	サポートした児童生徒のうち学校復帰等の改善 年間1～2名減	—	()
		実績	不登校者数 小中計28名	不登校者数 小中計17名 11名の減	不登校者数 小中計32名 15名の増	不登校者数 小中計17名 15名の減	
進捗状況説明	児童生徒の学力向上のために、小中学校へ学習支援員を配置し、授業にあたる教師と連携を図りながら個に応じた支援、補習での取組を行い、学習内容の理解を確実にすることで学力向上を図った。小学校においては全国平均正答率より、0.62ポイント上まわり、中学校においても-1.82ポイントとなり昨年度と比較してかなりの学力向上が図れた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>小中学校へ学習支援員を配置することで、個に応じた学習支援が行われており、全国学習・学力調査において小学校では全国平均正答率を上まわり、中学校においても県の平均正答率を上まわることができたと考える。</p> <p>特別支援教育支援員の配置を2名増やし、個別の実態に応じた手立てを行ったことにより、安心・安全な学習環境のもとで授業が行われたことが学力向上につながったと考えられる。</p> <p>スクールカウンセラー、特別支援CDを配置することで担任、保護者との連携が図られ、教育相談や就学支援等での適切な指導を行うことができたが、相談件数が増加しており計画的に対応することに苦慮している。</p>	<p>学力向上の取組において、小学校は全国平均を上まわり、中学校は県平均を上まわったのは、学習支援員と担任や、特別支援教育支援員と特支CDの調整が十分に行われ、個に応じた支援や手立てが行われたからだと考えられるため、今後も同様の取組を行いながら学力向上に向けての指導にあたる。</p> <p>スクールカウンセラーや特別支援CDが、保護者の困り感について相談する機会を持つことで、個別の支援や手立てに役立てることができていることから、勤務形態を見直し、各学校の要望に対応できるようにする。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>各学校において、個別の支援についての担任と支援員の連携や、学年配置、活用について計画を立てさせるとともに、支援員のスキルアップのために継続的な研修を行うこととする。また、今回学力向上が図られたことから、今後もこの結果を維持できるように同事業を継続実施していきたい。</p>		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については公募により、複数者による面接を行っているので妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は「与那原町教育委員会嘱託員設置規程」「与那原町臨時職員に関する規則」により見合った適正な規模となっている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的に合致している。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③	国際理解人材育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	沖縄振興の発展に重要な国際的感覚や視点を身に付ける人材育成の為に、英語指導員(ALT)の他に英語指導の補助員を配置し、外国語活動及び国際理解教育を充実させる。また放課後において、スポーツをしながら英語に接することが出来るよう、スポーツイングリッシュスクールを開講する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算状況	(a) 当初予算額	2,556	6,302	6,487	8,922	
		(b) 予算現額	1,322	6,352	6,489	8,922	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,234	50	2	0	
		(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)		1,322	6,352	6,489	8,922	
	B. 執行済額		1,321	6,352	6,486	7,785	
	うち交付金充当額		1,057	5,081	5,188	6,228	
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		99.9%	100.0%	100%	87%	
予算状況の説明		不用額1,137千円が発生しているが、委託事業の開始時期がずれ込んだためである。人件費については、当初計画通りに執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	英語指導助手の配置	目標	(英語助手 1人)	(英語助手 2人)	(英語助手 2人)	(英語助手 2人)	
		実績	英語助手 1人	英語助手 2人	英語助手 2人	英語助手 2人	
	スポーツイングリッシュスクールの開講	目標	(—)	(—)	(—)	(21回)	
		実績	—	—	—	17回	
達成状況説明	計画通り、英語指導助手(ALT)を雇用し、各学校に配置した。 スポーツイングリッシュスクールの目標回数21回に対し、17回行った。 (目標回数より実施回数が少なくなったのは、対象団体の選定、外部コーチの人材確保に時間がかかったためである。)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	英語検定(1～4級)取得	目標	(英検95人)	(英検125人)	(英検135人)	(英検145人)	(英検185人)
		実績	英検116人	英検154人	英検125人	英検113人	
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	英語検定の受検者数は221人であり、習得者は113人であった。前年度よりも習得者数が減っているが、これはより高い級に挑戦する生徒が増えたためである。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>国際的感覚や視点を身につける人材の育成を目指し、児童生徒の英語力を高めるために英語指導助手を配置した。小学校においては積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢が見られるが、中学校での県到達度調査の正答率は0.4ポイントとわずかではあるが低い結果となっている。</p> <p>英語検定においては3級受験者が増え、問題の難しさから習得者数が減っていることが考えられる。受験者数に対する習得者数は51.1%となっている。今後受験生を増やすことが重要である。</p> <p>スポーツイングリッシュスクールの目標回数が少なくなったのは、希望団体が多く選定が難しかったことと、外部コーチの人材確保に時間がかかったことが上げられる。</p>	<p>中学校における「聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと」どのコミュニケーション能力に課題があるのかを分析し、指導の改善を図る必要がある。</p> <p>年間の英語検定開催の周知や、いきなり3級受験ではなく、4級受験者数を増やすための呼びかけを図り、着実なステップアップを図る必要がある。</p>

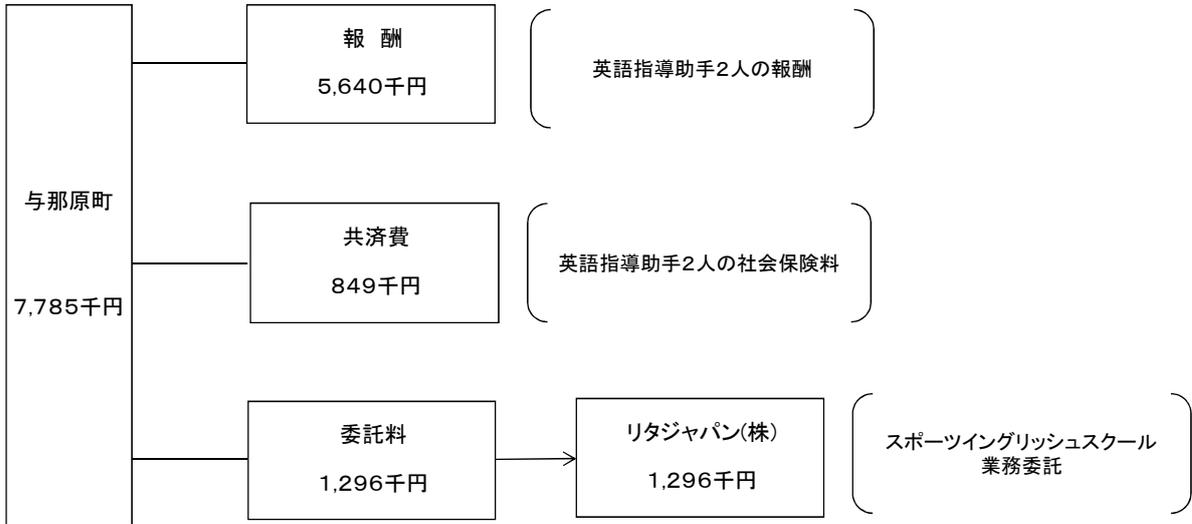
今後の取り組み方針

国際的感覚や視点を持った人材育成を行うためには、英語での高いコミュニケーション能力をもった人材の必要性が高まっているため、英語指導助手の配置事業を今後も継続して実施し、小学校におけるコミュニケーション能力の育成、中学校における「聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと」の課題分析と指導の改善を図るための小中連携した研修会を計画的に実施する。

英語検定については周知や声かけを積極的に行い、受験者数を増やすように改善を図り、さらなるコミュニケーション能力の育成の取組を行う。(4級からの受験を促す。)

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
7,785	7,785	6,228	1,557	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、本業務内容を提案しているリタジャパン(株)であるため随意契約した。 ○予算規模は「与那原町教育委員会嘱託員設置規程」により見合った適正な規模となっている。 ○費目・用途については事業目的に必要であり、合致している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-④	町立学校運動環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ウ	
担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	時代に対応する魅力ある学校づくりの推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	児童生徒の学習環境向上を図る為、潮風・太陽の照りつけでの砂埃・暑さの状況改善の整備を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,509				
		(b) 予算現額	5,509				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 繰越額	-				
		A. 計 (b+d)	5,509				
	B. 執行済額		5,333				
	うち交付金充当額		4,266				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		96.8%				
予算の状況の説明		4-①学校ICT環境整備等による学習意欲学力向上推進事業より事業間流用により執行。入札による執行残は出たが、当初計画通り事業内容はすべて実施することが出来た。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	スプリンクラー購入	目標	(6台)	()	()	()	
		実績	6台				
	芝張り工事	目標	(2校)	()	()	()	
		実績	2校				
達成状況説明	スプリンクラー6台(3校)購入、芝張り(2校)工事。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
	スプリンクラー購入及び芝張り工事による学習環境の向上	目標	(-)	(学習環境の向上)			
		実績		学習環境の向上			
	【参考指標】	目標	(-)	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	6台のスプリンクラーと2町立学校に芝張り工事完了。					

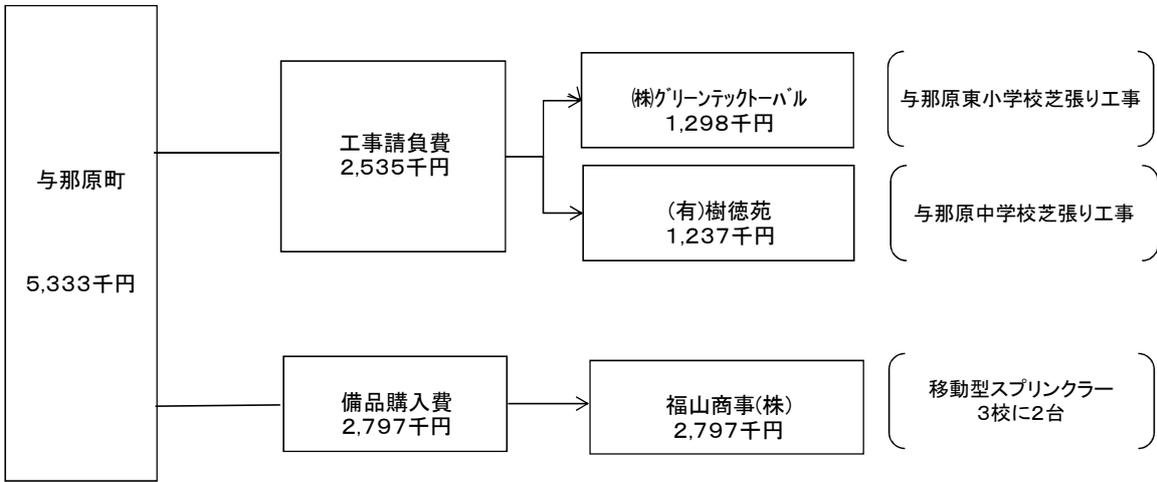
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>気温や強風等、児童生徒の運動環境に配慮しながら適切な使用を行う。本町の小中学校は海に面しており、潮風の影響が大きく、また沖縄特有の日差しの強さが体育等の際に児童生徒に与える影響が大きかったが、本事業を実施し、環境を整えたことで、砂ほこりも立ちにくくなり、輻射熱等が軽減されたため学習環境の改善が図られた。</p>	<p>スプリンクラーについては、定期的なメンテナンスを行い、良好な状態で使用する。</p>

今後の取り組み方針

児童生徒の健康面に配慮しながら、適切な稼働を行う。
スプリンクラーについては、年に一度の定期的なメンテナンスを行い、良好な状態で使用する。
また、保管についても使用のたびに土等を綺麗に落とし、管理する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
5,333	5,333	4,266	1,067	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先は指名競争入札により選定しており妥当である。 ○予算規模については事業目的に必要であり、合致している。 ○費目・用途については事業目的に必要であり、合致している。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町							
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5-① ほっとハート子育て応援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-(イ)			
担当部課名	子育て支援課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実			
事業内容	0歳児童の待機児童対策を目的に、児童を安全に受け入れるため看護師を雇用する認可保育所を支援する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,250	3,000	3,000	2,100		
		(b) 予算現額	1,091	3,000	1,900	2,100		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,159	0	▲ 1,100	0		
		(d) 繰越額	0	0	0	0		
		A. 計 (b+d)	1,091	3,000	1,900	2,100		
	B. 執行済額		1,089	1,891	1,800	1,650		
	うち交付金充当額		871	1,512	1,440	1,320		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		99.8%	63.0%	95%	79%		
予算の状況の説明		当初予算時には、認可保育園(4か所)に看護師配置を目標としていたが、今年度(平成27年度)の申請が、3か所の認可保育園のみだったため、3か所の配置(うち1か所は7月からの配置)となり、予算残45千円が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	認可保育園への看護師配置4施設(各1名)	目標	(5か所)	(5か所)	(5か所)	(4か所)		
		実績	3か所	4か所	3か所	3か所		
	看護師配置による受入定員の増25名	目標	()	()	()	(25名)		
		実績				16名		
達成状況説明	今年度も認可保育園の園長会等で、事業を周知し4か所の保育園への看護師配置を目標としていたが、今年度(平成27年度)の申請が、3か所の認可保育園のみだったため、3か所のみ配置となった。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
	0歳待機児童数 H26(10月)38名→H27(10月)23名 (各年10月現在)	目標	(24人)	(4人)	(4人)	(23人)	()	
		実績		28人	38人	36人		
	【参考指標】		目標	()	(75人)	(75人)	(75人)	()
	0歳児童の認可園受け入れ数 (24年度については10月現在・25年度以降は年度末)		実績		78人	63人	73人	
	進捗状況説明	0歳児を9人以上預かる保育園へ看護師を配置することで、安心安全な保育環境を確保し、待機児童解消を目指しているが、児童の受け入れ人数は看護師のみならず、保育士確保に影響されることからその受入数は毎年増減がある。幸い今年度においては、待機児童の数(38人→36人)、受入人数(63人→73人)と前年度より数値が良くなっている。看護師配置は目標の5か所を達成していないことから今後も、看護師確保に力を入れたい。さらに、保育士確保に関しても各保育園と連携する必要がある。						

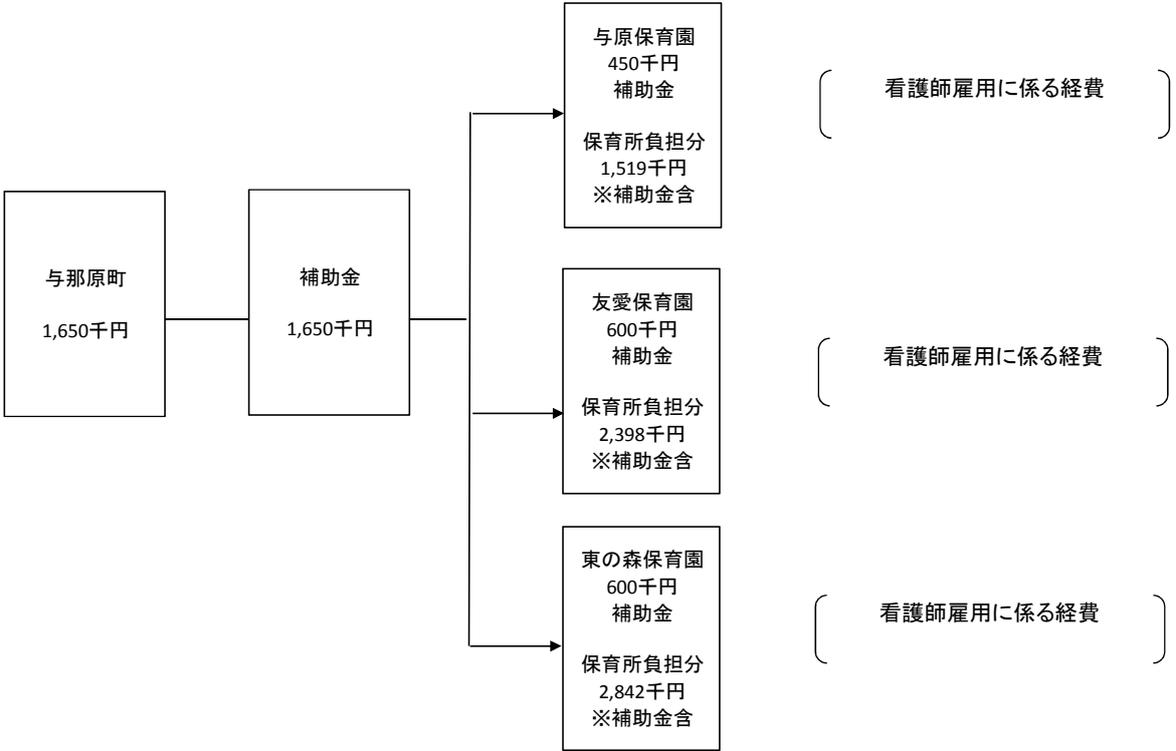
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	当初、4か所の認可保育園へ看護師配置を目標として、各保育所で看護師の求人を行ったが、保育所での勤務内容や賃金等の問題から応募が少なく看護師配置(採用)が目標数より下回ってしまった。	認可保育園においては、看護師確保に苦慮している実態があることから、ハローワークや看護協会等と連携し看護師確保の支援が必要である。 保育士確保においても、ハローワークや沖縄県保育士・保育所総合支援センター等を利用し、認可保育園と連携を強化する必要がある。

今後の取り組み方針

0歳児を9人以上受け入れることのできる全ての認可保育園へ看護師を配置することで、安心安全な保育環境を整え待機児童の解消と0歳児受入数の拡大するために、看護協会やハローワークと連携を取りながら認可保育園への看護師配置を支援していく。また、平成27年度より始まった地域型保育(家庭的保育等)を拡大することで、多様な受け皿をつくることで、0歳児の受け入れ態勢を強化していきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

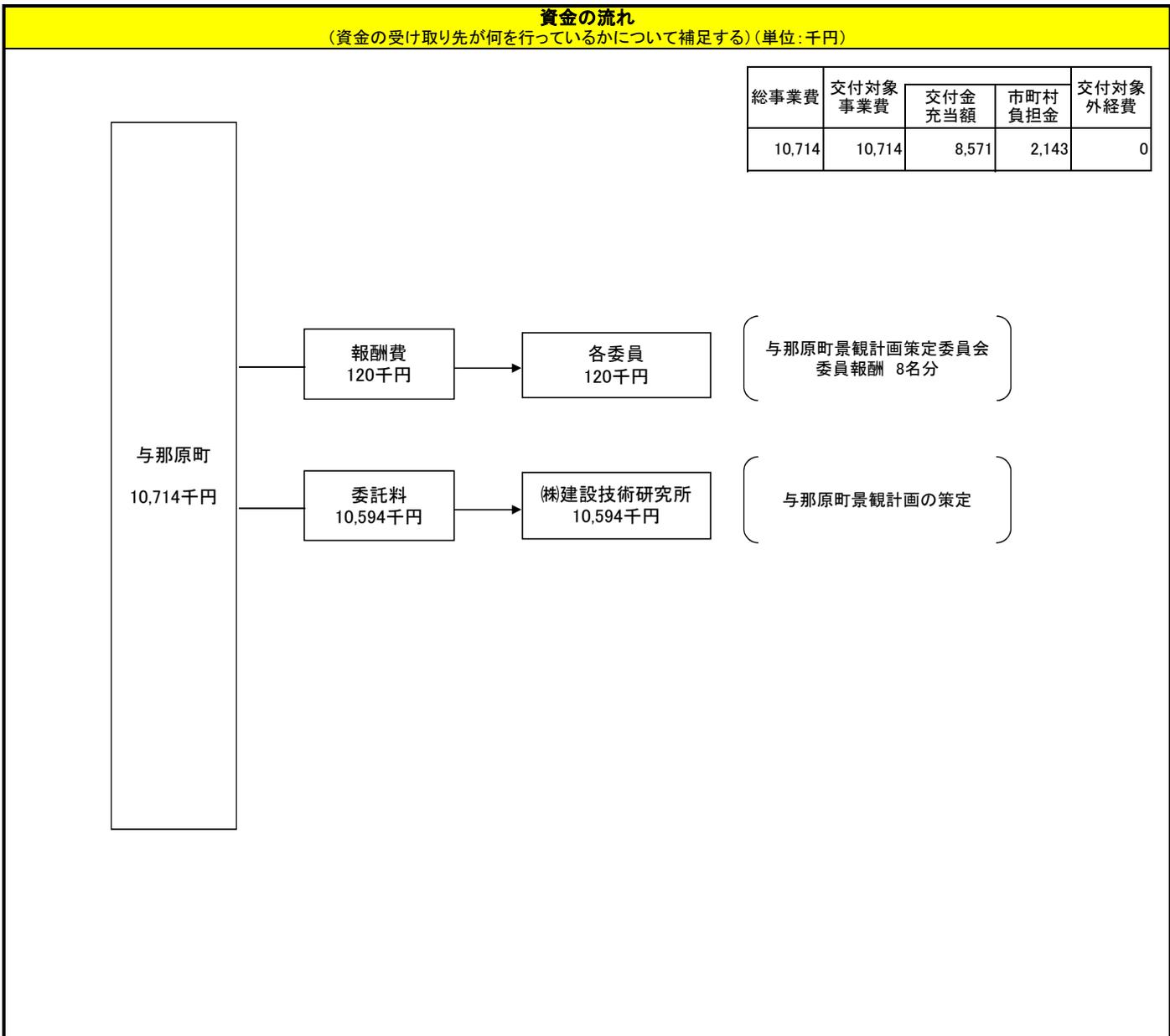
総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
1,650	1,650	1,320	330	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、補助金交付規則に基づき、町内すべての法人認可保育園へ周知し、事業を実施した保育園を選定しているので妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模(補助金額)についても保育士給与と看護師給与の差額(月額5万円程度)となっており、適正な予算規模である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係も上記より妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途についても、保育園からの支出書類(給与明細)等を確認しており、事業目的に即した真に必要なものに限定されている。

市町村名	与那原町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-① 与那原町景観形成強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア		
担当部課名	まちづくり課	事業実施(予定)年度	平成24~27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり Ⅲ-1-(1)		
事業内容	本町は、沖縄らしい風景を象徴する赤瓦の県内唯一の生産地であることから、赤瓦を利用した与那原町らしいまちづくりを促進し観光振興を図る為の景観計画を策定する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	24年度(繰越)	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,000	0	3,057	12,057	
		(b) 予算現額	7,000	0	2,744	12,057	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 313	0	
		(d) 繰越額	0	7,000	0	0	
	A. 計 (b+d)		7,000	7,000	2,744	12,057	
	B. 執行済額		0	6,720	2,743	10,714	
	うち交付金充当額		0	5,376	2,194	8,571	
	次年度繰越額		7,000	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		0.0%	96.0%	100%	89%	
予算の状況の説明		執行率が低下した理由は、委託の入札残(1,343千円)によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況					
			25年度(24年度繰越)	26年度	27年度	28年度	
	・与那原町景観計画策定(策定委員会の開催4回、パブリックコメントの開催など)	目標	(景観計画の策定)	(景観計画の策定)	(景観計画の策定)	()	
		実績	景観計画基礎調査	景観計画(素案)策定	景観計画の策定		
	・与那原町景観条例(案)の作成(景観まちづくりサポーター会議の開催4回、住民説明会の開催など)	目標	()	(沖縄県との協議を実施)	()	()	
実績			沖縄県との協議を実施した				
達成状況説明	景観策定委員会を3回、検討部会を2回、作業部会を1回開催し、都市計画審議会を経て与那原町景観計画(案)を策定した。平成28年度は、与那原町景観計画条例(案)の策定を予定している。 ※サポーター会議については、平成26年度のみの実施となっています						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度(繰越)	26年度	27年度	目標値(28年度)	
	景観条例制定に向けた条件整備(景観計画、景観条例(案)の策定)	目標	()	(景観計画の策定)	(景観計画の策定)	(景観計画の策定)	()
		実績		景観計画基礎調査	景観計画基礎調査	(景観計画の策定)	
		目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	景観策定委員会を3回、検討部会を2回、作業部会を1回開催し、都市計画審議会を経て与那原町景観計画(案)を策定した。平成28年度は、与那原町景観計画条例(案)の策定を予定している。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>景観計画策定にあたっては建築物の制限等が発生し、既存建築物への影響が大きくなることから、委員会で合意形成に時間を要す。</p>	<p>委員会や作業部会等で制限についての説明を行いながら、講演会等で住民に広く周知する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>平成27年度に策定した景観計画(案)を基に与那原町景観計画条例を制定する。</p>		



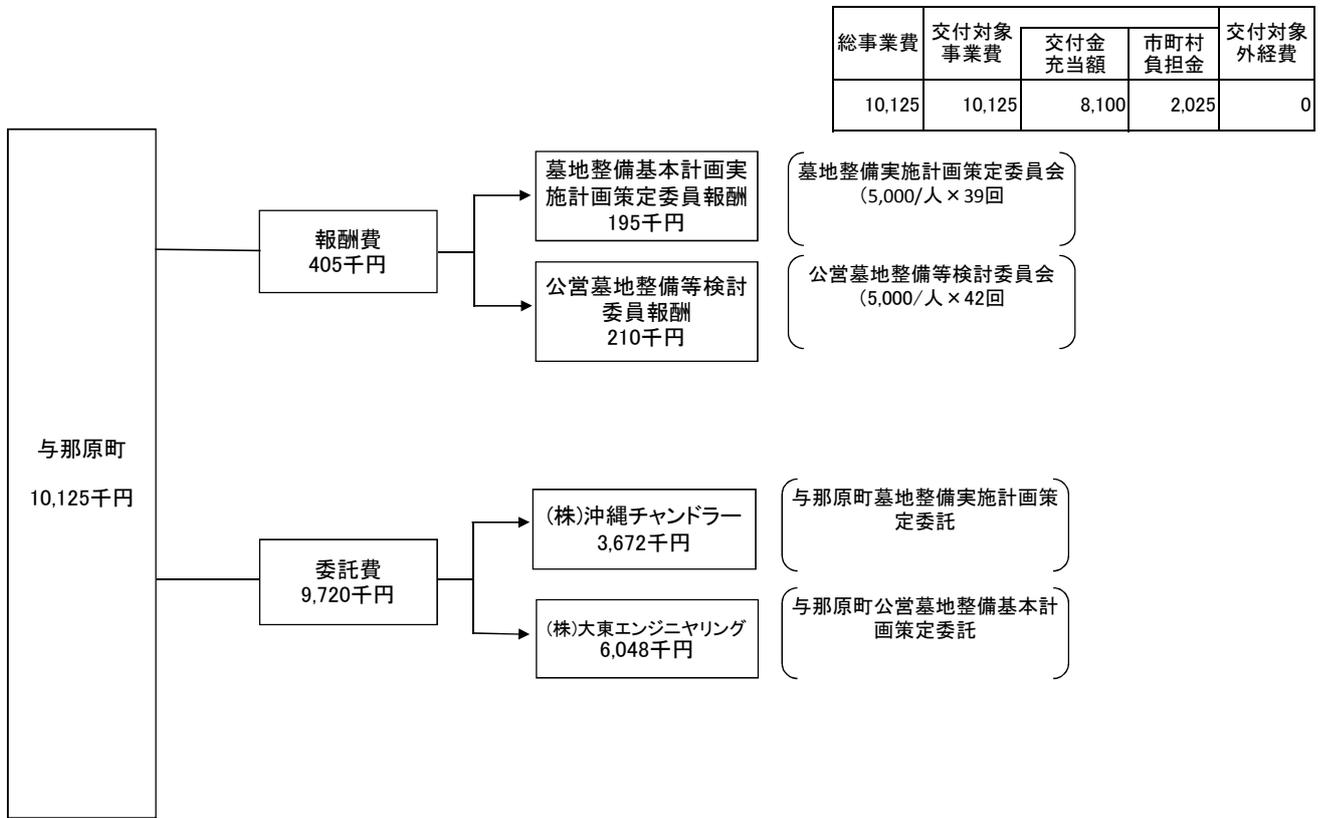
資金の 用途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争型入札により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模についても複数業者に見積もりを依頼し定めたものであり、適正な規模となっている。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-① 与那原町墓地整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-(ア)		
	担当部署名	農林水産課（旧農水環境安全課）			事業実施（予定）年度	平成26～33年度	
		沖縄振興基本方針該当箇所	III-10-(1)				
事業内容	本町では狭隘な土地と急速な人口増加により市街地と墓地区域が混在・近接しており、優良な市街地の形成と新たな土地開発、景観形成を推進するため墓地の集積に取り組む。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+ 「市町村負担」 ベース）			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,945	10,959			
		(b) 予算現額	3,945	10,959			
		(c) 増減額 (b-a)	0	0			
		(d) 前年度繰越額	0	0			
		A. 計 (b+d)	3,945	10,959			
	B. 執行済額		3,275	10,125			
	うち交付金充当額		2,620	8,100			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		83.0%	92.4%			
予算の状況の説明		当初県外での先進地視察を予定していたが、都市型納骨堂の建設及び県外との墓地経営の慣習が違うため、県内の先進地視察に変更した。 不用額810千円については委託の入札残や旅費の不用額などによるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	墓地整備実施計画策定 ・委員会開催 5回 ・計画策定 (公営墓地建設の方向性、墓地建設の規制、基本計画の周知方法)	目標	(委員会開催5回 計画策定)	()	()	()	
		実績	委員会開催5回 計画策定				
	公営墓地整備基本計画 ・委員会開催 5回 ・計画策定 (建設場所の選定、規模、規格、数量、付属施設等の計画)	目標	(委員会開催5回 計画策定)	()	()	()	
		実績	委員会開催7回 計画策定				
		目標	()	()	()		
		実績					
達成状況説明		墓地整備実施計画策定委員会を開催し、公営墓地の必要性や墓地建設の規制について方向性を定め、「墓地整備実施計画」を策定した。 公営墓地整備等検討委員会を開催し、公営墓地の整備に関する基本方針を定め、「公営墓地整備基本計画」を策定した。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (24年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	墓地の規制、集積方法、公営墓地整備の方向性の整理(「与那原町墓地整備実施計画」の策定)	目標	()	(実施計画 策定)	()	()	()
		実績		実施計画策定			
	墓地の集積に向けた具体的な公営墓地のあり方の整理(「与那原町公営墓地整備基本計画」を策定)	目標	()	(基本計画 策定)	()	()	()
		実績		基本計画策定			
	進捗状況説明		平成27年度は、与那原町墓地整備基本計画で課題であった事項を検討するため、墓地分布図及び墓地実態調査報告書を基礎資料とし、策定委員会を5回開催したうえで「与那原町墓地整備実施計画」を策定することができた。 また、公営墓地整備に関することを検討するため、公営墓地整備等検討委員会を7回開催し、「与那原町公営墓地整備基本計画」を策定することができた。				

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>本町では狭隘な土地と急速な人口増加により市街地と墓地区域が混在・近接しており、優良な市街地の形成と新たな土地開発、景観形成を推進するため墓地の集積に取り組む必要がある。</p> <p>墓地整備実施計画及び公営墓地整備基本計画を策定し、墓地の規制や公営墓地整備に関する基本方針を策定した。計画の推進にあたっては、地域説明会の開催や、公営墓地整備費等の財源の確保などの課題を要する。</p>	<p>本事業においては、検討委員会運営支援から計画策定までの委託となっている。計画策定にあたっては、地域の声や、マリンタウン地区に建設が決定したMICE施設を含めた今後の開発等を考慮するとともに、公営墓地整備コストの削減にも重点を置き、策定したが、さらなる建設費の縮減に向けて検討が必要。</p>

今後は、個人墓地の規制を検討するとともに、公営墓地の建設については、さらなる事業コストの削減を目指すとともに、様々な視点・手法から検討を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は指名競争型入札により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模についても複数業者に見積もりを依頼し定めたものであり、適正な規模となっている。</p> <p>○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出は適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

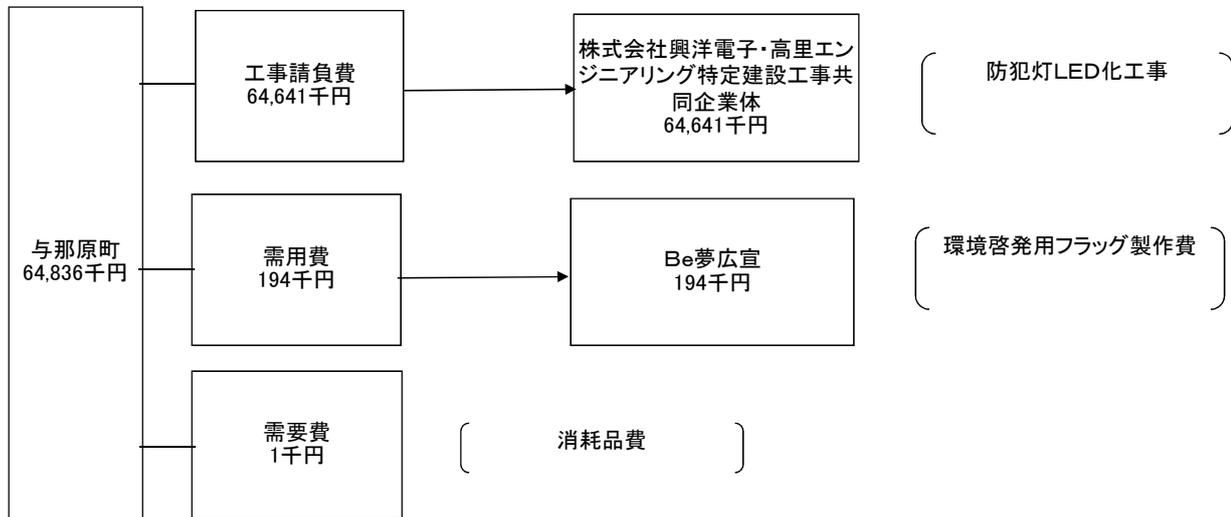
市町村名		与那原町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-① 地球温暖化を防止するための循環型社会形成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-(ウ)		
	担当部課名	生活環境安全課（旧農水環境安全課）		事業実施（予定）年度	平成26～28年度		
				沖縄振興基本方針該当箇所	低炭素都市づくりの推進 Ⅲ-10-(1)		
事業内容		異常気象の要因や、生態系への影響が懸念される地球温暖化への対策として策定された「与那原町地球温暖化防止実行計画」を達成する取組みの一つとして、町内全域の防犯灯、街路灯をLED化するとともに、気象講演会の開催、フラッグの掲示を行い、町全体として温室効果ガスである二酸化炭素の排出抑制に取り組む。					
実施方法		<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,514	70,211			
		(b) 予算現額	6,514	70,211			
		(c) 増減額 (b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	0	0			
		A. 計 (b+d)	6,514	70,211			
	B. 執行済額		5,184	64,836			
	うち交付金充当額		4,147	51,868			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率（%）(B/A)		79.6%	92.3%			
予算の状況の説明		不用額5,375千円については入札残によるものである。					
活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	防犯灯LED化600基	目標	()	(600基)	()	()	
		実績		661基			
	地球温暖化防止実行計画説明会及び気象講演会開催1回	目標	()	(1回)	()	()	
		実績		1回			
・防犯灯・街路灯の配置図面作成 ・防犯灯・街路灯LED化設計作成	目標	(配置図・設計額作成)	()	()	()		
	実績	配置図・設計額作成					
達成状況説明	防犯灯LEDの設置については、目標600基であったが、新興住宅街での既存交通安全灯と防犯灯の設置についての整合を取るため、機器の入れ替えを行ったことや設計段階では見落としていた防犯灯の切り替えを行い、予定より多くの機器取替を行うことができた。また、気象講演会の開催は、目標の1回を実施した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
	防犯灯LED化による温室効果ガス（二酸化炭素類）排出量抑制	目標	()	()	3,600kg	()	()
		実績			3,714kg		
	説明会及び気象講演会参加者	目標	()	()	(100名)	()	()
		実績			18名		
	町全体での地球温暖化対策推進に向けた環境整備	目標	()	()	(講演会・啓発フラッグの掲示)	()	()
		実績			講演会・啓発フラッグの掲示		
	・防犯灯・街路灯の配置図面作成 ・防犯灯・街路灯LED化設計作成	目標	()	(配置図・設計額作成)	()	()	()
実績			配置図・設計額作成				
進捗状況説明	防犯灯LED化による温室効果ガス排出量を目標値より114kg抑制することができた。説明会及び気象講演会では、各行政区より参加者100名を見込んでいたが、開催時期が2月になったことも影響し、当日の参加者が目標を達成することができなかった。環境整備事業については、啓発フラッグの作成を行い、町内商店街や水路沿いに掲示することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>地球温暖化を防止することは、国内唯一の亜熱帯気候に暮らす沖縄県だけではなく世界規模で考えなければいけない問題です。</p> <p>本町では地球温暖化に大きな影響を及ぼす二酸化炭素の排出抑制に取り組む事業として、町内全域の防犯灯のLED化工事と環境問題に対する意識啓発のために講演会・地球温暖化事項計画の説明や啓発フラッグの掲揚を実施しました。</p> <p>事業後、防犯灯のLED化により町が明るくなったことで、防犯安全意識と同時に事業内容を説明する機会が増え、地球温暖化防止のための啓発意識の改善につながっている。</p> <p>町民の環境意識の啓発に対しては、継続的な活動が必要である。</p>	<p>今年度の事業での講演会参加人数が目標値に達成できなかった部分では、意識啓発活動が不十分であった。</p> <p>今後、町で開催する学習講座や広報紙等を活用し、環境意識を高めていくとともに、電気の使用量を抑制することで、温暖化防止につながることを積極的に行う必要がある。</p>

平成28年度～29年度にかけて町内の街路灯(交通安全灯)の取り換えを実施し、二酸化炭素排出量の抑制を図っていく。また、継続して町民に対し、地球温暖化を防止するための意識啓発活動に取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
64,836	64,836	51,868	12,968	0



資金の流 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○工事に関しては、指名競争入札であり、妥当であった。</p> <p>○予算規模と事業内容については、町内全域の事業で規模が大きく入札残が出たが、執行率92%は適正範囲である。</p> <p>○費目・使途については、事業目的に即し、費用なものに適正に使用している。</p>
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10-① 与那原町AEDステーション設置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(3)-(ウ)		
担当部署名	生活環境安全課（旧農水環境安全課）	事業実施（予定）年度	平成27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県民ニーズに即した保健医療サービスの推進		
事業内容	救助者にとって目印となり利用しやすい24時間営業店舗に自動体外式除細動器（AED）を設置し、町民の救命能力の向上と意識啓発に取り組む。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,670				
		(b) 予算現額	3,670				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 繰越額	0				
		A. 計 (b+d)	3,670				
	B. 執行済額	3,538					
	うち交付金充当額	2,830					
	次年度繰越額	0					
	執行率 (%) (B/A)	96.4%					
予算の状況の説明	不用額132千円は、入札残によるものである。						
活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）	達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	AED設置 7箇所	目標	(7式)	()	()	()	
		実績	7式				
	普通救急救命講習受講促進 （設置施設：7施設）	目標	(7店舗)	()	()	()	
		実績	0				
達成状況説明	町内24時間営業の7店舗にAEDを7式設置した。設置店舗の従業員を対象とした普通救急救命講習の受講については、覚書の中で店舗を展開する3社の要望に応じることになっているが、H27年度中はその要望がなかった。ただし、AED操作説明については全7店舗にて実施が完了している。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）	基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）	
	緊急事態発生時に救急車が到着するまでAEDを使用した救命措置を行える体制の整備	目標	()	(体制整備)	()	()	()
		実績		体制整備完了			
	【参考指標】 町職員の普通救急救命講習の受講率	目標	()	(100%)	()	()	()
		実績		100%			
進捗状況説明	店舗を展開する(株)丸大、(株)ローソン沖縄、(株)沖縄ファミリーマート及び東部消防組合消防本部との三者間で覚書を締結し、常時AEDが使用できる環境を整備し、応急救護体制の強化を図ることができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>これまで町内の公共施設を中心にAED設置を進めてきたが、施設が閉館している夜間や休日等に使用できないことが課題となっていたことから、町内に24時間営業店舗を展開する事業者の協力を得て、7店舗にAEDを設置し、24時間常時使用できる環境を整備した。</p>	<p>より多くの町民が救命措置が行える体制づくりが必要</p>

今後の取り組み方針

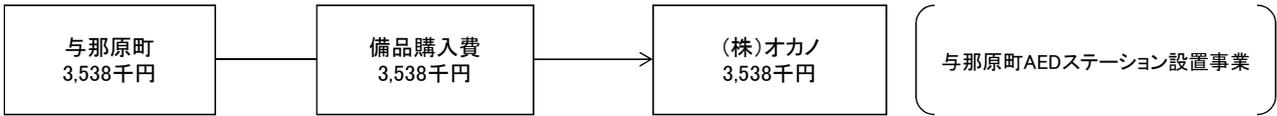
町職員の普通救命講習受講率100%を維持するため、頭部消防組合消防本部と連携のもと、適宜受講を更新するとともに、新採用職員に対しては研修科目として普通救命講習の受講の継続を図る。

設置店舗を展開する3社(株式会社丸大、株式会社ローソン沖縄、株式会社沖縄ファミリーマート)へ協力を求め、従業員への普通救命講習の受講率向上を図る。

各行政区、自治会やPTA等の各種団体に対して協力を求め、普通救命講習の受講率向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
3,538	3,538	2,830	708	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託業者は指名競争入札により選定しており妥当である。 ○複数業者見積を参照として設計額を算出しており、予算規模は適正である。 ○完了検査を実施し費目・使途は事業目的に即し真に必要なものに限定されている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	11-① 防災情報システム整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-(イ)		
担当部署名	生活環境安全課（旧農水環境安全課）	事業実施（予定）年度	平成27～平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
事業内容	Ⅲ-10-(2)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,534				
		(b) 予算現額	5,704				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 830				
		(d) 繰越額	0				
		A. 計 (b+d)	5,704				
		B. 執行済額	5,702				
		うち交付金充当額	4,561				
		次年度繰越額	0				
		執行率 (%) (B/A)	100.0%				
予算の状況の説明	予算減額の理由としては、事業間流用によるものである。						
活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）	達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	基本計画書の策定	目標	(策定)	()	()	()	
		実績	策定				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	観光客や外国人来訪者及び地域住民の円滑な避難誘導を実現するため、町独自の防災情報システムの整備に向けた基本計画を策定した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）	基準値 (27年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (31年度)	
	実施設計に向けた資料の整理完了	目標	(完了)	()	()	()	()
		実績	完了				
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	独自の防災情報システムの整備に向けた基本計画を策定し、概算事業費、工事仕訳書、工事内訳書、ランニングコスト(15年)等の基礎資料の整備を完了した。					

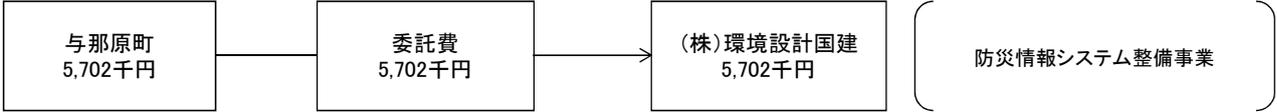
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>【事業実施の背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災の教訓や近年大型化の傾向がある台風等に備え、日中夜間を問わず、円滑な避難誘導を実現するための情報発信体制の構築が必要。 <p>【事業推進上、明らかになった課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> システム整備費用及びランニングコスト <p>【今後懸念される問題点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大型MICE施設整備により想定される影響や課題を踏まえたシステムの再検証 	<p>【事業推進上、明らかになった課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災情報システム整備の優先順位 <p>【今後懸念される問題点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大型MICE施設の誘致決定を受けて、沖縄県及び本町のまちづくり基本構想や各種想定課題等に対応した総合的な情報発信体制の検討

今後の取り組み方針

大型MICE施設の誘致決定に伴う各種基本構想や想定課題等との整合性を図りながら、整備費用やランニングコストを踏まえたシステム整備の優先順位を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
5,702	5,702	4,561	1,141	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札により選定しており妥当である。 ○複数業者見積を参照として委託設計額を算出しており、予算規模は適正である。 ○完了検査を実施し費目・使途は事業目的に即し真に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町
------	------

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	11-② 避難誘導情報サイン整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-(イ) 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部署名	生活環境安全課（旧農水環境安全課）	事業実施（予定）年度 平成27～28年度	沖縄振興基本方針 該当箇所 Ⅲ-10-(2)

事業内容
来訪者や町民への適正な避難誘導を促し、ひいては「歩いて楽しむ観光」を推進するため、避難誘導標識システム構築を目指し、ユニバーサルデザインを踏まえた基本計画及び実施設計を策定する。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他（ ）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）	予算の状況					
	(a) 当初予算額	5,972				
	(b) 予算現額	5,347				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 625				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	5,347				
	B. 執行済額	5,346				
	うち交付金充当額	4,276				
	次年度繰越額	0				
	執行率 (%) (B/A)	100.0%				
予算の状況の説明	予算減額は、事業間流用によるものである。					

活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）	達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度
		避難誘導サイン基本計画書の策定	目標	(策定)	()	()
	実績	策定				
	サイン整備実施設計の策定	目標	(策定)	()	()	()
	実績	策定				
達成状況説明	観光客や外国人来訪者及び地域住民の円滑な避難誘導を実現するため、避難誘導情報サイン整備に向けた基本計画を策定した。					

成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）	基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）	
		サイン整備に向けた資料の整理完了	目標	(完了)	()	()	()
			実績	完了			
			目標	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	本町の地勢にあった避難誘導情報サイン整備に向けた基本計画及び実施設計を策定し、基礎資料の整備を完了した。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	【事業実施の背景】 ・東日本大震災の教訓を踏まえた津波災害からの円滑な避難誘導を実現するため、避難誘導情報の配信体制構築が必要。 【事業推進上、明らかになった課題】 ・本町東浜地区における避難困難区域の軽減 ⇒学校法人嘉数女子学園と協定書を締結により、避難困難区域の面積が約62haから約24haに軽減された。 【今後懸念される問題点等】 ・本町東浜地区を含むマリンタウン地区への大型MICE施設整備により、想定される避難経路の設定とその誘導情報の配信体制	【事業推進上、明らかになった課題】 ・避難困難区域(約24ha)の軽減策の検討(津波避難タワー等の検討) 【今後懸念される問題点等】 ・避難誘導サインを整備するにあたり、優先順位を定め、効率的に整備する。
	今後の取り組み方針	
供用予定の国道329号南風原与那原を含めた避難経路及び誘導策の設定に向けた関係機関との協議 ⇒新たな避難先及び避難経路検証とMICE施設利用者等に向けた避難誘導情報の配信体制の検討 町内の避難困難区域の解消に向けた施策の検討(津波避難タワー整備等)		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
	5,346	5,346	4,276	1,070	0
<pre> graph LR A[与那原町 5,346千円] --> B[委託費 5,346千円] B --> C["(株)国建 5,346千円"] subgraph Project [] C end </pre>					

資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札により選定しており妥当である。 ○複数業者見積を参照として委託設計額を算出しており、予算規模は適正である。 ○完了検査を実施し費目・使途は事業目的に即し真に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	12-① 与那原町「記憶資源」保存・活用事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 3章-1-(5)-(ア) 文化資源を活用したまちづくり				
担当部署名	生涯学習振興課	事業実施（予定）年度 平成27～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所 Ⅲ-3-(2)				
事業内容	既存の網曳資料館の現状と課題を洗い出し、資料展示の刷新を行う。与那原町の魅力を町内外へ発信する展示活動と、来客数増加計画策定及び活動に必要な資料・情報の収集並びに調査研究活動を実施する。町内の高齢者や情報提供者・協力者とのネットワークを構築し、地域を巻き込んだ調査活動を展開する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,618				
		(b) 予算現額	5,265				
		(c) 増減額 (b-a)	647				
		(d) 繰越額	0				
		A. 計 (b+d)	5,265				
	B. 執行済額		5,059				
	うち交付金充当額		4,047				
	次年度繰越額		-				
	執行率 (%) (B/A)		96%				
予算の状況の説明		入札、見積合せによる残額がある事と、按分の難しい消耗品に関しては単費事務費で負担したため執行率が低くなっている。また、嘱託員2名の社会保険料が当初予算で計上されていなかったため補正を行い、増額となった。					
活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	資料館の活動改善企画展・展示計画の策定	目標	(展示改善計画策定)	()	()	()	
		実績	展示改善計画策定済				
		目標	入館者数増加計画策定 (入館者数 2,000人)	()	()	()	
		実績	入館者数増加計画策定済 (入館者数 2,455人)				
	ホームページ作成	目標	(ホームページ作成、開設 アクセス数 50件)	()	()	()	
		実績	アクセス数 87件				
	聞き取り調査実施	目標	(聞き取り調査50件)	()	()	()	
		実績	聞き取り調査54件				
達成状況説明	課題等の洗い出し、企画運営の見直しを図り、展示改善計画、来館者数増加計画を策定する事が出来た。聞き取り調査による情報収集、調査を実施し、目標件数を達成することができたが、証言者の高齢化が進んでおり、次年度に追加調査を行なう。網曳資料館ホームページを3月に開設し、情報発信を始めている。アクセス件数の目標を上回っているが、さらなるアピールが必要と思われる。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（28年度）
	高齢者と連携した調査による文化と生活史の記録保存	目標	()	(聞き取り調査 50件)	()	()	(30件)
		実績		聞き取り調査 54件			
	資料館の円滑な企画展活動の実施に伴う年間来館者数2,000人	目標	()	(2,000人)	()	()	(10,000人)
		実績		2,455人			
	HPアクセス目標：月50件	目標	()	(50件)	()	()	(1,200件)
実績			87件				
進捗状況説明	○平成27年度の聞き取り目標件数を達成する事ができた。しかし、年々証言者の高齢化が進んでいる。今回の調査により収集した情報等をさらに精査し、追加で情報収集が必要な部分を今年度30件ほど聞き取り調査をする予定である。 ○平成27年度の来場者目標数2,000人を上回ることができた。平成28年度は展示会場の刷新と来館者の増加を目標に計画を立てているが、今年度以上の増加が見込まれる。（与那原大綱曳前後は、入館者も多く平成27年度は平成26年度入館者数を750人上回っている。） ○総合学習、体験学習の回数増加とそれらの実施体制強化と、内容の充実を図る必要がある。 ○ホームページ開設を行ったが、アクセス数の伸びが振るわず、PRの方策を立てる必要がある。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>与那原大綱史の魅力発信を行う当施設は、本来なら本町における観光の中心であるはずが、運営内容は形骸化の一途をたどっていたことが本事業の取組みのきっかけとなった。</p> <p>展示内容の改善については、本年度で計画策定し、次年度実施となるが、来館者の多い時期にタイミングよくオープンすることで来館者の増加とリニューアルのアピール効果が高まるため、工程管理を厳格に行うことが肝要である。</p> <p>聞き取り調査に関しては、調査対象者が高齢化していることから情報収集を強化し早急に行うべきと考える。</p>	<p>展示内容に関する課題を踏まえ、展示方針を決定し、改善する事とした。大綱史を中心とした展示とし、与那原の成り立ち(歴史)、地形等を加えた内容とする。</p> <p>資料閲覧を効果的に行う為に、設備改修を行う。</p> <p>触れる事の出来る展示物や、体験コーナーの実施体制の強化を図る。</p> <p>看板やサインを各所に設置し施設への誘引を図る。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>今年度策定した各計画を次年度に移行し、入館者数増加を図る。 「まちあるきガイド」との連携を図り、入館者の誘引体制を強化する。 大綱史まつり数週間前から運動した企画展、体験コーナー、見学会等を企画し実施する。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	5,059	5,059	4,047	1,012	0
与那原町 5,059千円	報酬費 4,032千円	嘱託職員(2名) 4,032千円	[与那原町嘱託職員設置条例に基づき 専門職員設置]		
	共済費 602千円	けんぽ連(2名) 602千円	[健康保険料・厚生年金保険料額表より 算定]		
	消耗品費 48千円	株式会社サンエー・デオ 他6件 48千円	[【購入品目】 ・PCマウス・SDカード・コピー用紙・USBケーブル ・プリンターインク・ハレバネ・乾燥剤・薄葉紙 ・ビニールバック]		
	備品購入費 226千円	株式会社ヤマダ電機 145千円	[ノートパソコン 2台]		
		有限会社ビジサービス 56千円	[プリンター・デジタルカメラ・ICレコーダー 各1台]		
	(有)シビルサービス 25千円	[温湿度計 1台]			
委託料 151千円	スタイルウェブ 151千円	[ホームページ作成]			
資金 使途の 流れ、 点検、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者、備品購入先少額であるため三者見積もり合 せて選定しており、妥当であったと考えている。		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の4%以内であり適正な規模であった。		
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目 的に即し、必要なものであったと判断した。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名		与那原町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	13-① 与那原町海外友好親善大使人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア		
	担当部署名	総務課	事業実施(予定)年度		平成27~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進 Ⅲ-7
事業内容	文化交流を推進するため、与那原町出身の海外移住者子弟を本町で研修生として受け入れ、日本語研修及び文化研修等を通して、本町及び本県と移住先国とのネットワークを強化し、PR大使として友好親善並びに沖縄文化の振興・発展に貢献しうる人材を育成する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
		(a) 当初予算額	3,977				
	(b) 予算現額	2,817					
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,160					
	(d) 繰越額	0					
	A. 計 (b+d)	2,817					
	B. 執行済額	2,542					
	うち交付金充当額	2,033					
	次年度繰越額	0					
	執行率 (%) (B/A)	90.2%					
予算の状況の説明	当初、研修生専属の臨時職員を12か月の雇用予定だったが、6か月間へ変更となったため予算1,160千円減額した。不用額275千円については、報償費の減や役務費の減などによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	海外移住者子弟研修生受入 (国際交流PR大使の任命):2人	目標	(2人)	()	()	()	
		実績	2人				
	児童生徒・町民との交流会:2回	目標	(2回)	()	()	()	
		実績	4回				
	帰国後の研修報告会:1回	目標	(1回)	()	()	()	
実績		0回					
達成状況説明	海外移住者子弟研修生受入については、当初予定通りブラジルから2名の研修生を受け入れた。児童生徒・町民との交流会については、与那原大綱曳まつりの金鼓隊への参加、町内小中学校3校の訪問により、町民及び児童生徒と交流を図ることができた。地域住民との交流により、研修生の日本語の向上、住民の国際交流及び移民の歴史に関する知識の向上、関心を深めることができた。帰国後の研修報告会については、研修生及び在ブラジル与那原町人会へ依頼を行ったところ、各会員広域にわたって居住しているため、報告会を開催することが困難であるとのこと。帰国後、研修生によって与那原町での研修の様子をまとめたレポートが作成され、町人会長に「研修報告」として送付された。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	与那原町での交流会でのアンケート 国際交流に関心がある人の割合:70%	目標	()	(70%)	()	()	()
		実績		85%			
	帰国後の研修報告会でのアンケート 沖縄・与那原に関心がある人の割合:70%	目標	()	(70%)	()	()	()
		実績		-			
	PR大使としての活動	目標	()	(PR大使活動)	()	()	()
実績			沖縄料理の普及活動 相撲大会への出場等				
進捗状況説明	地域住民や町内小中学校での交流会を通してアンケートを実施した。333名からの回答を集計した結果、目標である70%を上回る85%の方々から「国際交流に関心がある」との回答を得られた。帰国後の研修生によるアンケート実施については、ブラジル町人会員は広域にわたって居住しているため、報告会の開催やアンケートの実施が出来ず、研修生が作成した研修報告書を町人会長へ提出するのみとなった。研修生のPR大使としての活動については、研修で得た知識や技能等を生かし、母国にて沖縄料理の普及や地域の相撲大会に出場するなど、沖縄及び日本の文化の継承に努めている。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>戦前戦後海外へ移民したウチナーンチュは、終戦直後の沖縄に対し物資援助等を行い支えてきた歴史がある。彼らの故郷への想いは強く、沖縄とのつながりが途絶えぬよう若い世代に継承し、両国の振興と発展に寄与する人材の育成を行うため海外移住者子弟研修生2名をブラジルより3カ月間受け入れた。</p> <p>研修プログラムとして、日本語研修を始め、三線や沖縄料理、書道、空手などの文化研修を行い、その他町最大の伝統行事「与那原大綱曳まつり」への参加、様々な文化施設等の見学、そば作り体験、町内小中学校訪問等により地域住民との交流を深めることができた。</p> <p>研修生は研修課題に真摯に取り組み、積極的に町の行事等にも参加しているが、3カ月という限られた期間で研修生が何を学びたいか、研修した成果を母国でどのように活かしていくのかという目標や目的をよりはっきりさせる必要性を感じた。特に帰国後の活動状況については、各町人会員の住居が広域にわたっているため、報告会及びアンケートの実施をすることができず、一部成果目標を達成することができなかった。それを踏まえ、更なるネットワークの強化及び研修生の意識向上を図るなどの課題を要する。</p>	<p>研修プログラムについては、できるだけ研修生の要望を事前に把握し、目的に沿ったプログラムが組めるよう努める。また、親善大使としての意識向上を図り、交流の架け橋として活躍できる体制づくりを行う。</p> <p>帰国後も引き続きネットワークを強化し、研修生の活動状況を把握できる環境づくりに努める。同時に、各国県人会または町人会の協力を仰ぎ、沖縄文化の継承・発展に貢献していく人材育成を図るため、研修報告会の開催、県人会及び町人会での活動を通して故郷への興味・関心を高めていく必要がある。</p>

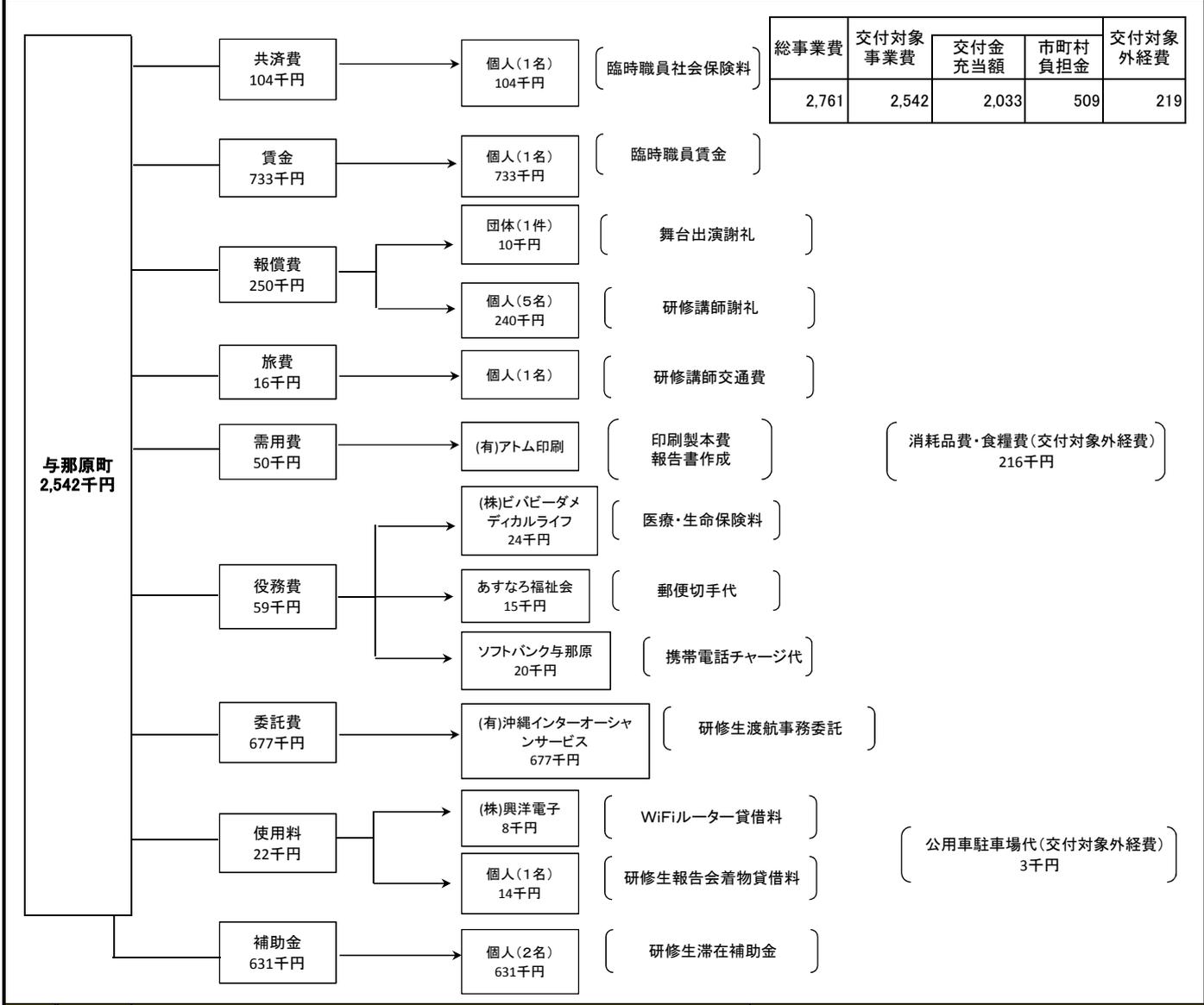
今後の取り組み方針

研修生に関しては、28年度も南米各国から2名受け入れる予定である。

与那原町民との交流会については、町内各事業所または小中学校の訪問を予定しており、国際交流及び移民の歴史への関心度を更に高めていこう努める。また、町民に向けての研修報告会を実施し、沖縄文化の更なる振興・発展、歴史について意識向上を図っていく。

研修生が帰国後母国にて研修報告会等を開催し、県人会及び町人会において沖縄及び与那原町への関心度を高め、継続して両国の振興・発展に貢献する人材として活動を行えるよう体制の強化を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か	<p>○委託事業については、レート価格の変動、社会情勢等により渡航費を算出するのが困難なため、南米渡航コーディネートを専門とする3業者に見積りを依頼。入札に適さないため、与那原町契約規則に基づく随意契約とした。</p> <p>○予算規模は適正である。</p> <p>○受益者である研修生の個人負担分は、与那原町地域振興推進事業交付金交付要綱に基づいており、妥当である。</p> <p>○費目、使途については、精算段階で検査を実施し、目的に即し必要なものと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか	

市町村名		与那原町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	14-① 与那原町沖縄関係戸籍電算化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(5)-(イ)		
	担当部課名	住民課	事業実施(予定)年度		平成27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	戦後処理問題の解決
事業内容	戦災滅失した戸籍を再製するために作成された町保管の仮戸籍申告書、臨時戸籍及び福岡戸籍を電子化することで、原本の汚損、破損、による滅失、散逸を防ぎ、貴重な行政証明の資料及び、歴史的文書として永続的な保管を実施する。また、電子化することにより円滑な検索、証明発行ができるようにする。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	15,768				
		(b) 予算現額	14,688				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,080				
		(d) 繰越額	0				
		A. 計 (b+d)	14,688				
	B. 執行済額		14,099				
	うち交付金充当額		11,279				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		96.0%				
予算の状況の説明		不用額、589千円については、復元戸籍数の減による作業経費等の減額によるもの。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	H27年度中に仮戸籍申告書、臨時戸籍及び福岡戸籍を電算化する。	目標	(100%)	()	()	()	
		実績	100%				
			目標	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	戦災滅失した戸籍を再製するために作成された町保管の仮戸籍申告書、臨時戸籍及び福岡戸籍を電子化し、原本の汚損、破損、による滅失、散逸を防ぎ、貴重な行政証明の資料及び、歴史的文書として永続的な保管を実施した。また、電子化することにより円滑な検索、証明発行ができるよう整備を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	仮戸籍申告書、臨時戸籍及び福岡戸籍を電算化する	目標	()	(100%)	()	()	()
		実績		100%			
			目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	戦災滅失した戸籍を再製するために作成された町保管の仮戸籍申告書、臨時戸籍及び福岡戸籍を電子化し、原本の汚損、破損、による滅失、散逸を防ぎ、貴重な行政証明の資料及び、歴史的文書として永続的な保管を実施した。また、電子化することにより円滑な検索、証明発行ができるよう整備を行った。					

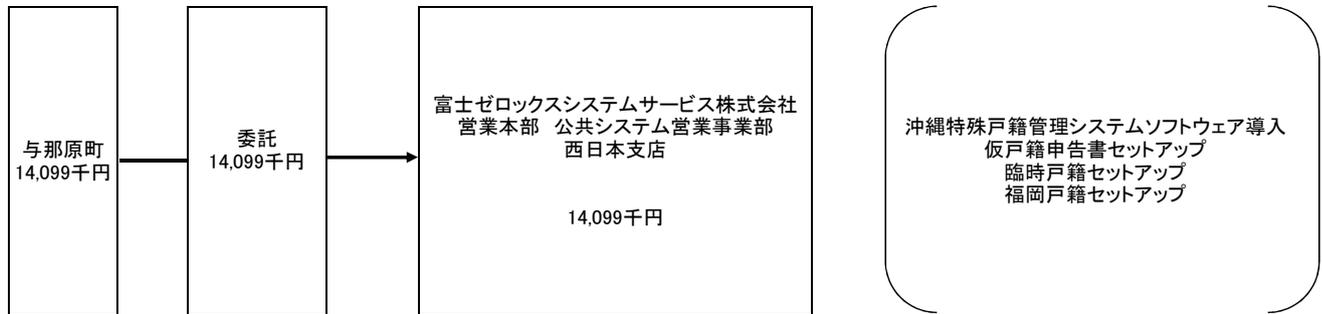
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>戦災滅失した戸籍を再製するために作成された町保管の仮戸籍申告書、臨時戸籍及び福岡戸籍原本の汚損、破損、による滅失、散逸を防ぐため電子化による整備を行い、貴重な行政証明の資料及び、歴史的文書として永続的な保管を実施した。</p> <p>電子化データを基に円滑な検索、証明発行ができるようシステムの整備を行った。</p>	<p>行政証明や戸籍訂正の重要な資料を検索システムにより速やかに提供できるようにしつつ、電子化することにより、永続的に保管、管理を行う必要がある。</p>

今後の取り組み方針

電子化した結果、永続的に保管、管理をが出来る体制が整った事により、行政証明や戸籍訂正の重要な資料を検索システムの活用等にて速やかに提供していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
14,099	14,099	11,279	2,820	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○現行戸籍システムが今回受託業者と同一であるため、システムの運用及び復元戸籍データの活用において、他社との契約となった場合、費用、作業ともに不具合が生じるため、地方自治法第162条の2の2の規定により随意契約となった。</p> <p>○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。</p> <p>○受益者は、本町へ本籍を有する方に限らず、町の行政サービスの向上及び、貴重な歴史資料としての保存の観点からも、町の負担する事業費の2割が、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。</p> <p>○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町
------	------

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	16-① 公立幼稚園保育環境整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-(イ)
担当部課名	子育て支援課	事業実施(予定)年度	平成27～33年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-4

事業内容
 働きながらも安心して子育て出来る与那原町をめざし、保護者の就労形態に対応できる幼稚園保育を充実させるため、保育時間の延長と給食の提供を開始する(平成28年度～)、それらに伴う保育環境整備を行う。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	4,497				
	(b) 予算現額	4,497				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	4,497				
	B. 執行済額	4,208				
	うち交付金充当額	3,366				
	次年度繰越額	0				
	執行率 (%) (B/A)	94%				
	予算の状況の説明	当初の設計額 4,497,000円が、入札等により契約額が4,208,000円になったため、執行率が94%になった。				

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		27年度	28年度	29年度	30年度
冷房設備整備	目標	(空調機 4機設置)	()	()	()
	実績	空調機 4機設置			
給食保管庫コンテナ購入	目標	(コンテナ 2台購入)	()	()	()
	実績	コンテナ 2台購入			
配膳台購入	目標	(配膳台 8台購入)	()	()	()
	実績	配膳台 8台購入			
達成状況説明	与那原幼稚園の保育室の保育環境改善のための未設置保育室への空調機を4機設置 与那原幼稚園及び与那原東幼稚園への平成28年度保育時間午後2時までの延長による給食開始ともなう給食管理用の給食保管庫コンテナ 各園1台配置 給食配膳台 8台(与幼 5台 東幼3台)の配置				

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
			保育時間延長と給食開始に伴う保育環境整備、完了	()	(空調機 4機 コンテナ 2、 配膳台 8)	()
進捗状況説明	保育室の空調機設置により、平成28年度幼稚園保育時の真夏日や降雨時における保育室の保育環境を改善し、園児たちの幼稚園プログラムの取組への意欲向上を図れる。また、平成28年度からの保育時間延長に伴う給食の開始による給食時間の安定した食育の取り組みへの環境整備できた。 給食開始において幼稚園にはなかった給食保管用コンテナ(各園1台)と給食配膳台(与幼5台、東幼3台)を準備し給食の安心安全の確保のための設備が整った。					

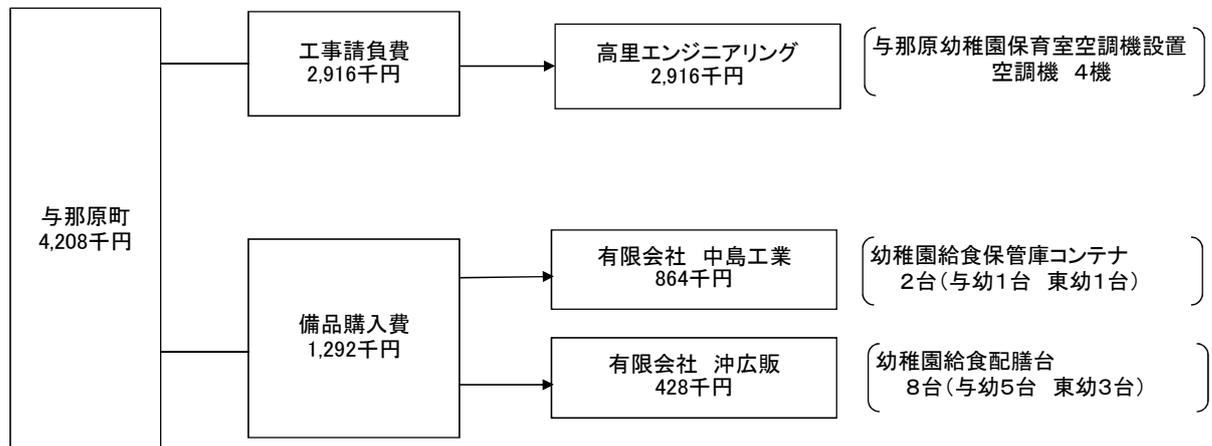
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	平成28年度の幼稚園保育の開始に間に合うように、事前に保育環境改善に取り組んだ。ただし、補助決定が追加交付決定であり、設計額の設定および入札に時間を要したため、事業完了が年度末月までかかってしまった。	幼稚園保育時間延長することにより充実した幼稚園教育が行える。また給食の導入による給食時の安全の確保と食育へ取り組むために給食配膳支援員を配置し、子どもたちの遊びと教育と食事マナー等の幼稚園保育の質の向上を図る。

今後の取り組み方針

快適な環境整備の中で保育時間の延長と給食提供を開始する。(平成28年度～)また、給食開始に当たっては安全に提供できるよう配膳支援員の配置する。本町では保護者の就労形態に対応できるよう、平成28年度から公立幼稚園保育時間の延長と給食提供を開始する。それらに伴う保育環境整備を行ったところであるが、給食開始にあたって安心安全に給食が提供できるよう、配膳支援員を配置する。あわせて、日照時間の長い沖縄での保育においては、子どもの健康管理上「紫外線対策」は重要な課題であることから、町立保育施設へ紫外線対策の「サンシェード」を設置する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
4,208	4,208	3,366	842	0



資金の流 れの流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○備品購入について、三社見積による業者選定しており妥当であったと考える。 ○工事費及び備品購入費のみに限定され適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	